

2023 年度（令和 5 年）

事業報告書

社会福祉法人 福寿会

目次

1	法人理念	2
2	基本方針	3
3	理事会及び評議委員会の開催.....	4
4	施設概要	5
5	介護部門	6
	(1) 入所・住居系.....	6
	① 特別養護老人ホーム	6
	② ショートステイサービス.....	23
	③ グループホーム アクル	24
	④ 軽費老人ホーム	25
	⑤ サービス付き高齢者向け住宅.....	25
	a サービス付き高齢者向け住宅ヴィラ秋篠.....	25
	(2) 通所系	29
	① デイサービス	29
	(3) 訪問系	31
	① 訪問介護ステーション	31
	② 訪問リハビリテーション	32
	(4) 居宅介護支援事業所.....	32
	(5) 配食サービス.....	34
	(6) 委員会活動報告	36
6	医療部門	44
	(1) 平城園診療所	44
	(2) あきしの整形外科クリニック	44
7	保育部門	45
	(1) 登美ヶ丘マミーズ保育園	45
	(2) 福寿会マミーズ保育園	50

1 法人理念

【法人の基本理念】

1. その人の人権を尊重する
2. その人の自立を支援する
3. その人の心を癒す

【法人の基本方針】

1. 地域福祉の拠点として、地域から信頼される法人を目指します。
2. 利用者から評価される安心できる質の高いサービスを提供します。
3. 人材確保と育成に取り組み、職員の質の向上に努めます。
4. 各種制度や法改正の意思や方向性を見極め、中長期的視野に立った安定した経営を構築します。
5. 財務情報公開、行政の認証制度、苦情解決等の透明性の確保に努めます。

2 基本方針

令和5年度のテーマはアフターコロナ、経営基盤の確立、人材育成でした。

アフターコロナについては、コロナにより薄れてしまった交流の復活を目指しました。ご利用者宛ての面会や、秋祭り等のイベントを再開することで、コロナ前に合った交流を取り戻すことに取り組みました。加えて、新たな外部ボランティアの協力を得た施設内イベントの定例開催、地域の老人クラブへの参画等を通じた地域交流を行うことで、コロナ前にはなかった交流を生み出すことにも取り組みました。

経営基盤の確立については、足元の収支改善と将来的な収益基盤の確立に取り組みました。足元の収支改善については相談員の組織化による利用者獲得活動の強化を図りました。入所系施設の入居率は改善傾向にあり、高位安定出来るように継続的に取り組んで参ります。将来的な収益基盤の確立として、訪問介護部門、通所介護部門の拡大に取り組んでいます。しかしながら、訪問介護部門はヘルパーの獲得に苦慮しており、継続課題として取り組んでいます。一方、通所介護部門は送迎業務がネックになっています。施設間協働やドライバー採用による送迎業務の効率化を進め、収益基盤への成長を図って参ります。

人材育成については、外部講師を招いた研修の実施、外部研修の積極的な参加、オンライン研修システムの追加導入、資格取得制度の利用促進を進め一定の効果を感じています。しかしながら、新卒採用、外国人介護職員の採用等が進んでおり、人材育成が重要な状況は続いており、継続的に取り組むべき課題となっています。

令和5年度は3つの課題に取り組みました。一定の成果はありましたが、同時に次なる課題も見えてきました。引き続き、改善への取り組みと課題の発掘を繰り返して、地域と共に成長して参ります。

3 理事会及び評議委員会の開催

1) 2023 年度における理事会を次のとおり開催した

開催月	主な審議事項
2023 年 6 月	2022 年度 事業報告・決算報告
2024 年 3 月	2023 年度 補正予算 2024 年度 事業計画・収支予算

2) 2023 年度における評議員会を次のとおり開催した

開催月	主な審議事項
2023 年 6 月	2022 年度 事業報告・決算報告
2024 年 3 月	2023 年度 補正予算 2024 年度 事業計画・収支予算

3) 選任解任委員会を、次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
開催せず	

4) 監事による監査

- ① 監事は理事会に出席し、理事会の運営状況、法人の財産の状況を監査する。
- ② 監査報告書を作成し理事会及び奈良市長に報告する。

開催月	主な審議事項
2023 年 5 月	決算並びに事業報告の監事監査

4 施設概要

施設 1

名称	平城園	住所	奈良市秋篠町 1567
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホーム平城園	
ショートステイ		平城園ショートステイ	
グループホーム		グループホーム アクール	
サービス付き高齢者向け住宅		ヴィラ秋篠	
デイサービス		奈良デイサービス	
デイケア		平城園デイケア（名称仮）	
訪問介護ステーション		平城園ホームヘルプステーション	
訪問リハビリテーション		平城園訪問リハビリテーション	
居宅介護支援事業		平城園在宅介護支援センター	
配食サービス		福寿会配食サービス	
内科診療所		平城園診療所	
整形外科診療所		あきしの整形外科クリニック	
企業内保育所		福寿会マミーズ保育園	

施設 2

名称	ならやま園	住所	奈良市山陵町 1085
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホームならやま園	
ショートステイ		ならやま園ショートステイ	
デイサービス		ならやま園デイサービスセンター	
訪問介護ステーション		ならやま園ホームヘルプステーション	
居宅介護支援事業		ならやま園居宅介護支援事業所	
軽費老人ホーム		ケアハウス ニューライフならやま	

施設 3

名称	登美ヶ丘マミーズ保育園	住所	奈良市中登美ヶ丘五丁目 34-1
実施事業		事業所名	
認可型保育所		登美ヶ丘マミーズ保育園	

5 介護部門

(1) 入所・住居系

① 特別養護老人ホーム

a 特別養護老人ホーム平城園

令和5年度は「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」がテーマであった。新施設の開設に伴い職員の採用が活発になり、初めての外国人材の雇用など人員の安定確保に取り組んできた。また、IT機器の導入により業務の効率化を図るとともに、施設内・外の研修を強化し人材育成に注力した。

感染症については本年度もクラスターを経験したが、感染症対策力の向上、多職種連携により拡大を防ぐことができた。アフターコロナとして、ボランティアの受け入れや慰問の再開、外出や面会の緩和など、前向きに活動を広げていくことができていく。令和6年度は、継続課題として「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」「防災対策の推進」に取り組んで参る。

➤ 介護部門（従来型特養）

■ 体制づくり

新型コロナの5類相当移行を受け、感染予防を行いながら外部からの慰問を再開した。また10月には4年振りとなる秋祭りを実施することができた。8月より面会制限についても緩和し、ご家族との時間を提供することが出来た。試験期間を経て3月にインカムを導入し、職員間で有効な使い方について意見交換し、業務の効率化に取り組んだ。

■ 人材育成・雇用の安定化・職場環境づくり

介護職養成校の実習生を積極的に受け入れ、令和6年度の新卒採用に繋げることができた。また新たに介護アテンド職を採用し、業務分担によりケア時間の確保に努めた。外国人雇用へも取り組み、定着しつつある。来年度も積極的に外国人の採用を行う。ホームページ等での求人広告に積極的に取り組み、少しずつ雇用に繋がってきた。新規事業に向けて継続的に雇用できるように今後も取り組んでいく必要がある。一定の雇用はできたものの、退職者も多くあった。今後も退職者を出さないような取り組みを検討していく。

■ 災害・感染症に対応できる体制づくりの強化・計画の充実

感染予防の取り組みは継続して取り組んでいたが、2月に大規模な新型コロナのクラスター感染が発生した。発生に際しては各部署の連携を密にとり感染拡大の防止に努めたが、認知症の方への対応に苦慮する等、課題も多く残った。災害に備えて事業計画も実践可能なものに見直しを行った。今後も災害・感染症への意識を高く持ち、発生時は多職種連携をとり対応できるように取り組んでいく。

➤ 介護部門（ユニット型特養）

■ 個別ケアの推進

個々の思いに沿えるよう、毎月のふりかえり、見直しを通してケア内容や特徴の把握に努めた。個別化を意識しながらチームケアを実践したが、情報量に個人差はあったと考える。引き続き、暮らしの継続に近づけられるよう、ユニットケアの理解をすすめ、取り組んでいきたい。また、認知症状の特徴を捉え、個々を知り、理解に努めたが、実践や環境づくりは進まないことがあり、受容する力や発想力、想像力を高める必要がある。引き続き、課題として取り組んでいく。

■ 環境づくり

ハード面の目立った進展はなかったが、おやつを選択幅を広げたことで選ぶ楽しみが増えた。更に今後は、食事の提供方法も五感を刺激し、皆様の居場所らしさに繋げていけるよう変更していきたい。

用具の積極的導入は進まなかった。介護スキルは知識や経験量に合わせて指導した。新たな技術や情報の入手と発信に努め、ご入居者、職員共に安全、安心を得られる援助を継続的に実践していく。

➤ 看護部門

利用者の人権を尊重し「安心・安全」「納得・信頼」のある看護を提供する。

■ 利用者の健康管理、異常の早期発見

介護職員との連携を密にして異常の早期発見と、日々の状態観察を行い利用者の変化を速やかに医師に報告、指示のもと健康保持に努めた。基礎疾患を有する利用者が多く、一人が複数の診療科を受診するケースがある。医療機関への受診は(定期通院)370件(前年度・健診レントゲンを含む:357件)、入院した利用者は41名(前年度26名)だった。(図1と図2)

■ 感染症の対策

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策に努め、取り組んできたが、令和6年2月、利用者、職員のクラスターが発生した。発生後、感染拡大防止に向け、職員間での情報共有と、協力体制により、感染対策を進め、3月上旬には、感染状況は、終息した。引き続き、感染症対策をし、日頃から利用者の健康状態や、変化の有無等に留意し、感染防止に向けた取組を職員と連携し、推進した。

■ 利用者・家族に安心して頂ける看取り介護の提供

本年度園で亡くなられた利用者は48名(前年度31名)、うち看取り介護を受けられたのは33名だった(前年度14名)。

■ 褥瘡発生予防の体制

3 か月毎の褥瘡ケア計画書の作成および評価を行い、多職種協働により褥瘡の発生予防に努めたが、今年度は7 名（前年度 2 名）、褥瘡の発生があった。褥瘡予防に対してWEB 研修を行い職員の認識を深めるとともに、発生時は早期治癒に向けて診療所・あきしの整形外科クリニックと連携して対応した。

■ 介護職員との連携による医療的ケアの実施

看護師 4 名が医療的ケア教員講習を受講し園内での実地研修がよりスムーズに行える環境を整え、介護職員 4 名が認定特定行為業務者認定証を取得した。医療的ケア推進対策委員会を定期開催し、医療と介護で連携を図り安全に実施することができた。

■ 人材の育成

看護実習施設として、看護学生 19 名の実習を受け入れ人材育成に取り組んだ。

図 1 ＜利用者の受診・入院状況＞

（単位：人）

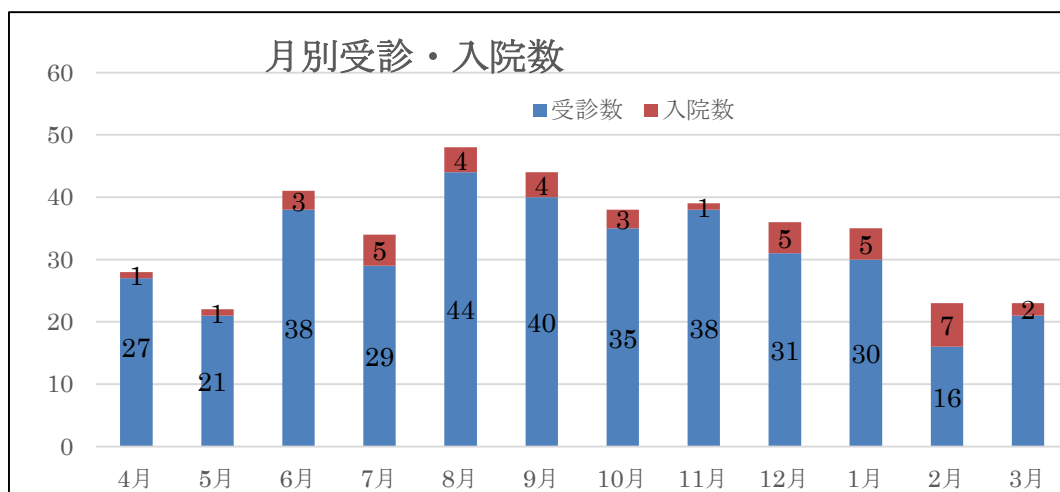
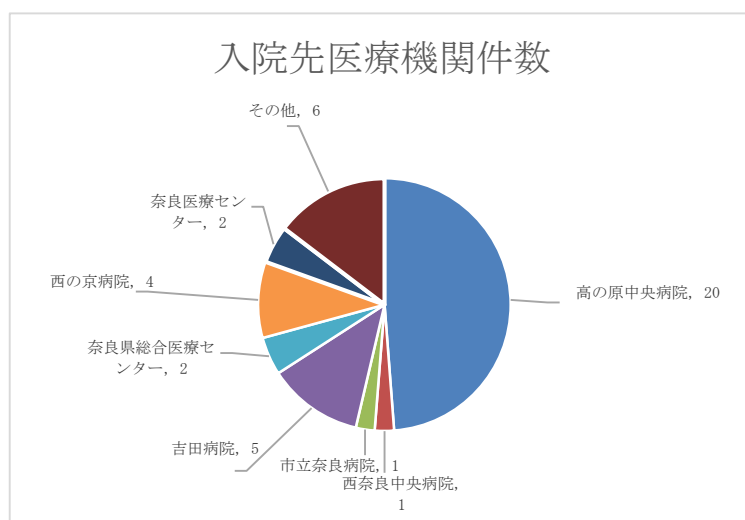


図 2 ＜入院先医療機関件数＞

（単位：人）



➤ 機能訓練

- 利用者及び家族の意向を尊重し、利用者一人一人の身体機能評価を行い、多職種連携のもと「身体機能」「生活機能」の維持・向上を図った。
- 主観的及び客観的評価を基に個別機能訓練計画書を作成し、身体機能の維持・向上の為に科学的根拠に基づいた機能訓練を実施した。
- 個々の日常生活動作能力に応じた介助を行い、残存能力を発揮する事で身体機能の維持・向上を図るよう、介助方法の指導・伝達等、多職種との連携を取った。また食事介助場面で誤嚥・窒息等のリスクが考えられるため、併せて食事介助方法等の指導も行った。
- 体動が困難な利用者には適切なポジショニングを行い、関節拘縮・褥瘡の予防、安楽な姿勢で過ごせる環境調整を行った。
- 基本的な感染症対策のほか、新型コロナウイルス感染症対策として機能訓練指導員一人につき 1 日 1 フロア制としていたが、年度途中の人事異動があったため、以降は柔軟に対応することとした。

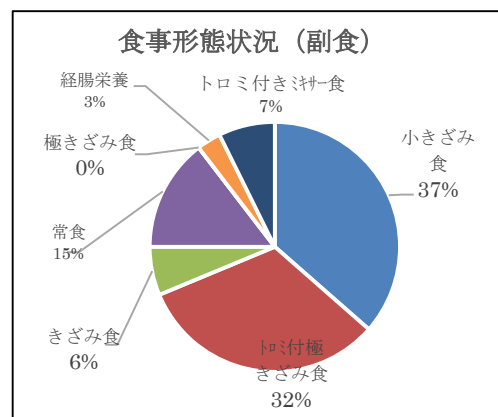
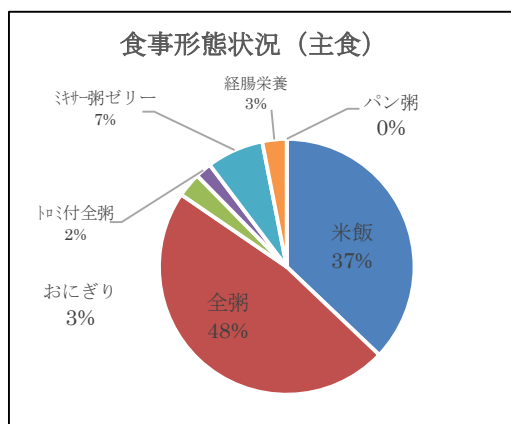
(単位：人)

	居室訓練（フロア）			ベッドサイド（居室）			合計
	従来型	ユニット型	合計	従来型	ユニット型	合計	
R5 年度	2,241	1,267	3,508	526	238	764	4,272
R4 年度	2,117	828	2,945	509	189	698	3,643

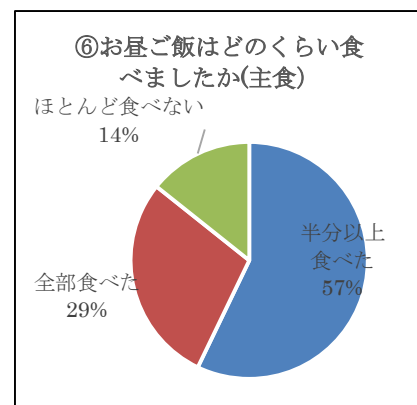
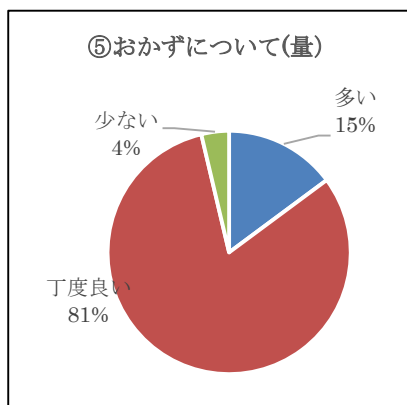
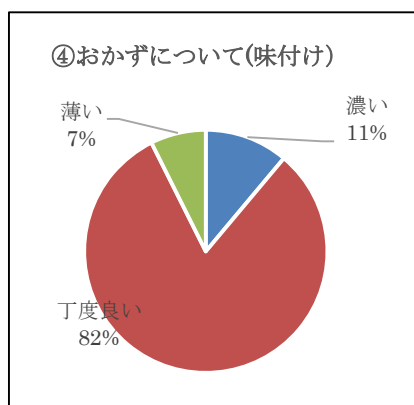
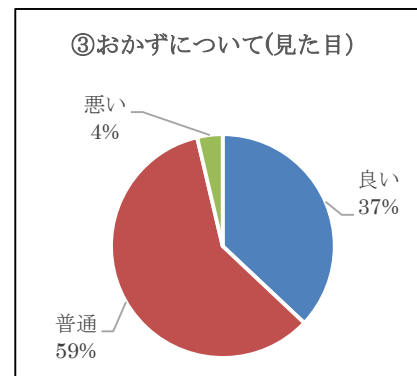
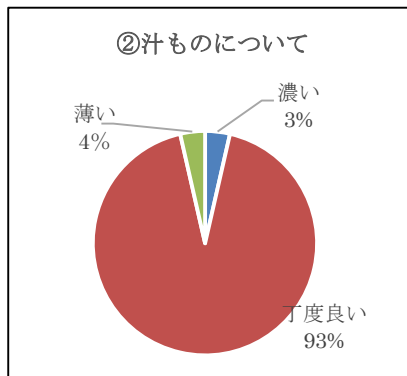
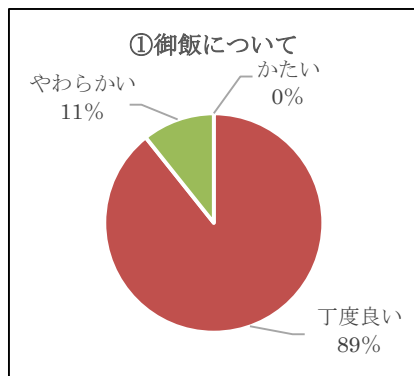
➤ 栄養管理部門

- 利用者に喜んで食べて頂けるように旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食等の実施により、季節の移り変わりや生活の中に変化と楽しみのある食事を提供できた。
- 給食会議等で、職員との連携強化し、ニーズの把握に努めることはできた。また、フロアごとのランチパーティーやおやつパーティー等の楽しんでもいただくサービスは、新型コロナウイルス感染症等に気を付けながら、数回ですが実施することができた。
- 栄養ケアマネジメントの実施は、介護部門、看護部門との連携により、一人ひとりの身体状況に適した食事の提供と共に効果的にできた。
- 災害用の備蓄については、災害に備えて、3 日分（9 食分）の備蓄内容の見直し、備蓄食品の保管場所と使用方法を給食会議で確認し、多職種での情報共有を実施できた。
- 配食サービスについては、高齢者に適した食材、栄養バランス、嗜好に合わせ、衛生面にも注意して作り、提供できた。
- デイサービスについては、季節感のある食事や行事食を提供できた。
- 企業内保育所については、子どもの年齢に合わせた食事の提供と安全でおいしい食事の提供ができた。

<R6 年 3 月 食事形態状況(個別対応) >



◇特養満足度調査（嗜好調査）結果 令和 6 年 3 月実施



*お食事についての希望（抜粋）

- ・つけものをつけてほしい
- ・ごはんはかたい時もあればやわらか時もある
- ・うすく味がしない時もある。
- ・全体的に量が多い。
- ・魚は美味しく作ってくれている。

➤ ボランティア部門

今年度よりボランティアの受け入れ、外部からの慰問を再開することができた。喫茶・ピアノ演奏・傾聴等に週2回のボランティアの他、オカリナ演奏・コーラスのグループによる慰問を再開し、利用者に喜んでいただくことができた。引き続き利用者に楽しんでもいただける活動を検討し実施していく。

➤ 介護サービス支援室

新型コロナの5類相当移行を受け、8月より面会の制限を緩和した。事前予約は継続しつつ、面会時間の延長、週毎の面会回数の制限を無くし、利用者と家族の時間がより多く持てるよう体制を整えた。

人材育成の面では、今年度もWEB研修を主体に実施した。WEB研修の活用により、専門的な講習を高い参加率で受講でき、人材育成に寄与した。

外部講師による講習も再開し、令和5年度においては「安全運転講習」「口腔ケアの重要性について」「介護職による医療的ケアの範囲」の内容で研修会を実施した。

介護記録システム使用の習熟度は施設全体として向上しており、報告書類の共有にも役立てる事ができた。

1月度より相談員、施設ケアマネ、リーダー長3名の人事異動が生じたが、各自が前任から引き継いだ業務をもとに分掌し、連携して行動した。

①在園年数

・従来型

在園年数 (R6.3.31 現在)							単位：人
	1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 7年未満	7年～ 10年未満	10年以上	合 計
男性	5	2	0	2	0	1	10
女性	25	18	4	3	1	1	52
合計	30	20	4	5	1	2	62
平均在所日数 ■男性 2年9ヵ月21日 □女性 1年10ヵ月9日 <u>平均 2年0ヵ月3日 (733日)</u>							

・ユニット型

在園年数 (R6. 3. 31 現在)						単位：人
	1 年未満	1 年～ 3 年未満	3 年～ 5 年未満	5 年以上	合計	
男性	3	1	0	0	4	
女性	10	12	3	2	27	
合計	13	13	3	2	31	
平均在所日数 ■ 男性 9 ヲ月 18 日 □ 女性 1 年 11 ヲ月 6 日 <u>平均 1 年 9 ヲ月 12 日 (647 日)</u>						

②利用者年齢構成

・従来型

利用者年齢構成 (R6. 3. 31 現在)									単位：人
	70 歳未満	70 歳～ 75 歳未満	75 歳～ 80 歳未満	80 歳～ 85 歳未満	85 歳～ 90 歳未満	90 歳～ 95 歳未満	95 歳 以上	合 計	
男性	0	0	0	7	2	0	1	10	
女性	0	2	3	9	14	17	7	52	
合計	0	2	3	16	16	17	8	62	

・ユニット型

利用者年齢構成 (R6. 3. 31 現在)									単位：人
	70 歳未満	70 歳～ 75 歳未満	75 歳～ 80 歳未満	80 歳～ 85 歳未満	85 歳～ 90 歳未満	90 歳～ 95 歳未満	95 歳 以上	合 計	
男性	0	0	0	1	2	1	0	4	
女性	0	0	0	3	7	7	10	27	
合計	0	0	0	4	9	8	10	31	

・従来型

最低・最高年齢 (R6. 3. 31. 現在) 単位：歳			
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	80	95	83.5
女性	70	100	87.8

・ユニット型

最低・最高年齢 (R6. 3. 31. 現在) 単位：歳			
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	84	94	88.8
女性	80	101	91.9

③利用者の状況

・従来型

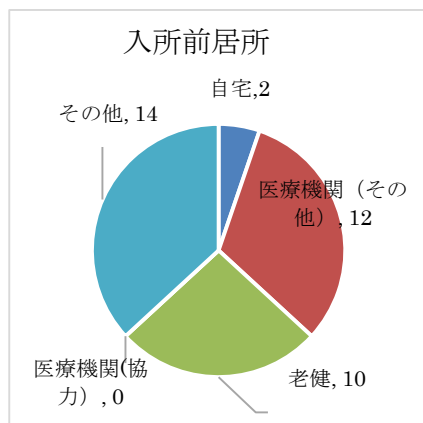
入退園の状況（年間）		
	性 別	年間合計数
新規 入園者	男性	8 名
	女性	30 名
退園者	男性	11 名
	女性	24 名

・ユニット型

入退園の状況（年間）		
	性 別	年間合計数
新規 入園者	男性	5 名
	女性	13 名
退園者	男性	5 名
	女性	19 名

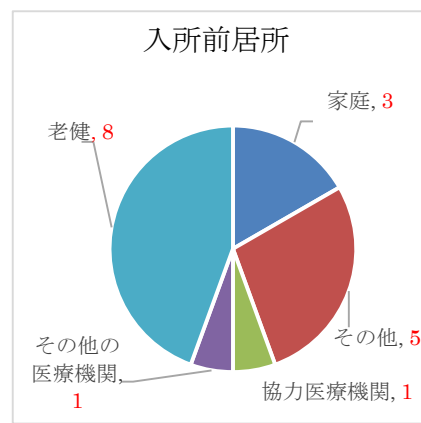
④入園前の状況（単位：人）

・従来型



退園理

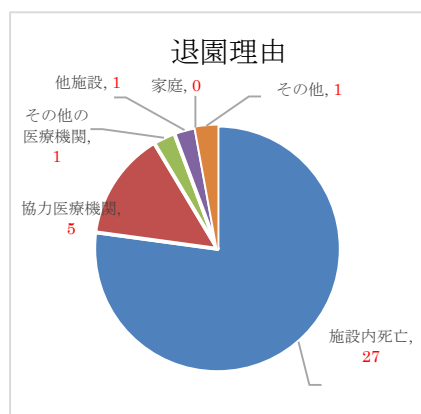
・ユニット型



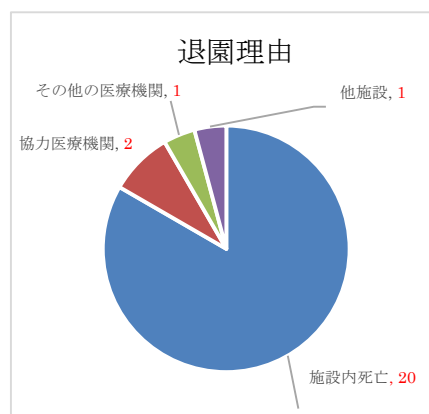
由（単

位：人）

・従来型



・ユニット型



⑤介護度別延べ人数

・従来型

利用者介護度別延べ人数（R6 年 3 月 31 日現在）							単位：人
年 度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	介護度平均
R5 年度	0	90	9,470	9,995	3,651	23,206	3.7
R4 年度	0	0	8,065	9,789	4,783	22,637	3.7

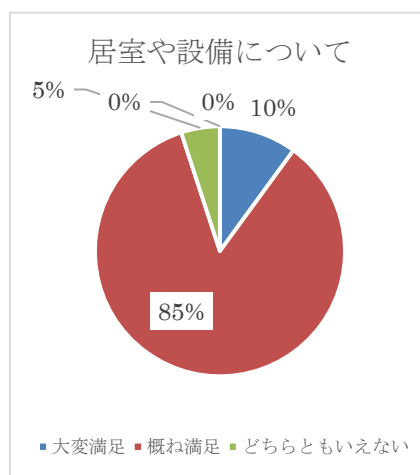
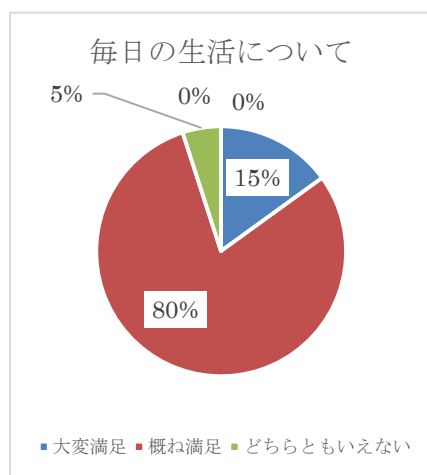
・ユニット型

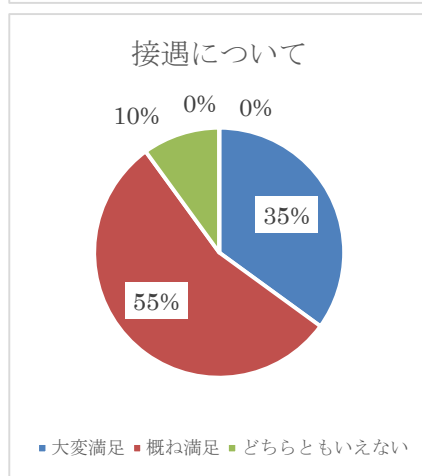
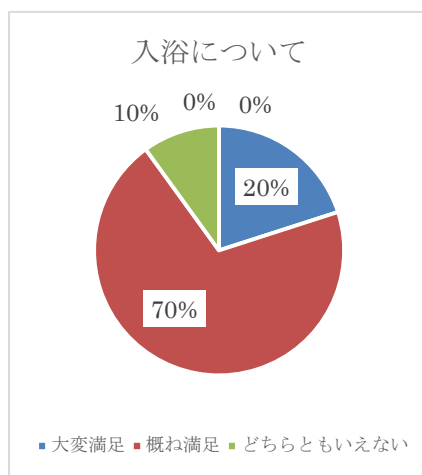
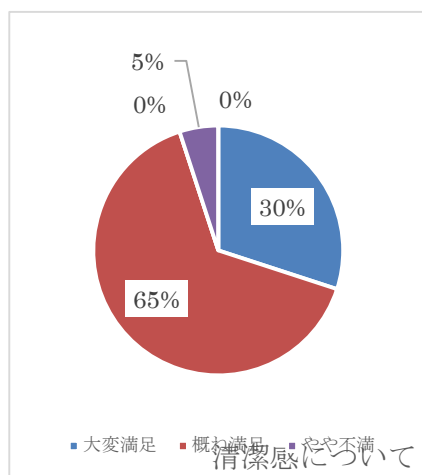
利用者介護度別延べ人数（R6 年 3 月 31 日現在）							単位：人
年 度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	介護度平均
R5 年度	0	0	5,513	5,505	2,026	13,044	3.7
R4 年度	0	0	5,119	5,768	2,665	13,552	3.8

◇ 特養 満足度調査 （令和 6 年 3 月実施 n=20）

調査目的：利用者の生活向上、職員の意識向上のため利用者の満足度を調査し、より快適に生活して頂くため利用者にアンケートを実施した。

※下記 5 項目について、1. 大変満足 2. 概ね満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不満の 5 段階評価にて回答してもらった。





アンケートにて頂戴したご意見（抜粋）

＜毎日の生活について＞

・ご飯の時に、ちゃんと見て世話してくれる ・のんびりさせてもらえる ・気兼ねが無い

＜居室や施設の設備について＞

・このぐらいがちょうど良い ・便座に乾燥機能が欲しかった

＜施設の清潔感＞

・綺麗にしてくれている ・自分でも自由に洗濯出来たら良い

＜入浴全般について＞

・大人数が入るので慌ただしく感じることはある ・大きい浴槽にも入りたい

＜職員の接遇について＞

・親切に、優しくしてくれる ・自分には出来ない仕事だと思うので感心する

・普通、とくに無い ・言葉がきつい時があるが、人は良い

b 特別養護老人ホームならやま園

令和 5 年度も春、夏から秋にかけて、新型コロナウイルス感染が 3 回発症し、利用者、職員ともに感染し療養を余儀なくされたが、過去の経験を活かし、大きなクラスターを防ぐことができた。「5 類」に移行したとはいえ、今後も感染症の脅威から利用者、職員を守れるように、気を緩めずに感染症対策に意識していきたい。

IT 機器についても、見守りシステムやインカム、記録のペーパーレス（ほのぼの導入）などを導入し軌道にのりつつある。IT 機器の活用により今後も利用者の安全を守ると共に、職員の負担軽減を目指し、職員が働きやすい職場づくり、利用者や家族が暮らしてみたと願う生活の場づくりを目指していきたい。

➤ 介護部門（従来型・ユニット型特養）

■ 介護の人材育成について

新型コロナウイルスの経験から、改めて介護士として専門職として利用者の生活を守るために出来る事を意識できる一年となった。個々の事情により退職者が重なり、厳しい状況となっているが、厳しい状況だからこそ、職員が連携し、業務の改善や提案なども取り入れることが出来たと感じる。働きたいと思う現場、働きやすい現場を引き続き模索していきたい

■ IT 機器について

令和 5 年度は本格的な導入が始まり、現場で活用することができはじめている。見守りシステム（ネオスケア）は特に夜間帯でのご利用者の安全面に活用できている。移乗補助ロボットは主にトイレ介助で使用。インカムは現場職員・看護師等との連携にも活用でき、業務の効率化の改善に繋がっている場面も多い。介護ソフト「ほのぼの」もようやく現場で活用を始めることが出来た。引き続き利用者の安全を守るため効果的に使用していきたい。

■ 災害の対策について

各部署で厚生労働省のセミナーを受講し BCP をより実践可能な計画に見直した。地域の方との協力体制のもと行う防災訓練に関しては実施ができておらず、喫緊の課題である。地域の防災拠点としての役割を果たせるように令和 6 年度は改めて災害対策を整えることに力をいれたい。

■ ホームページやブログの発信について

部署ごとで行ったイベントや行事の様子をこまめに発信することが出来た。引き続き、利用者の普段の生活の様子を発信することで、家族との繋がりや、園の魅力を伝えていく。

■ 感染症対策について

大規模クラスターの経験を経て、感染発症時にも混乱することなく、各職員が対応できた。今後も気を緩めることなく対策を講じていく。

①在園年数（R6. 3. 31 現在）

	1 年未満	1 年～ 3 年未	3 年～ 5 年未	5 年～ 7 年未	7 年～ 10 年未	10 年以上	計
男 性	5 名	7 名	0 名	1 名	0 名	0 名	13 名
女 性	10 名	23 名	15 名	8 名	4 名	2 名	62 名
合 計	15 名	30 名	15 名	9 名	4 名	2 名	75 名

②利用者年齢構成（R6. 3. 31 現在）

区分	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男 性	0 名	1 名	1 名	3 名	1 名	5 名	1 名	1 名	13 名
女 性	0 名	2 名	6 名	5 名	16 名	25 名	7 名	1 名	62 名
合 計	0 名	3 名	7 名	8 名	17 名	30 名	8 名	2 名	75 名

最低・最高年齢（R6. 3. 31 現在）

	最低年齢	最高年齢	平均
男性	73 歳	103 歳	87.6 歳
女性	71 歳	105 歳	88.9 歳

入退園の状況（年間）

	性別	年間合計
新規利用者数	男性	7 人
	女性	11 人
退去者数	男性	7 人
	女性	17 人

③利用者介護度別延べ人数（従来型）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
R5 年度	0	0	7,506	7,780	2,938	18,224	3.8
R4 年度	0	0	6,263	8,658	3,788	18,709	3.90

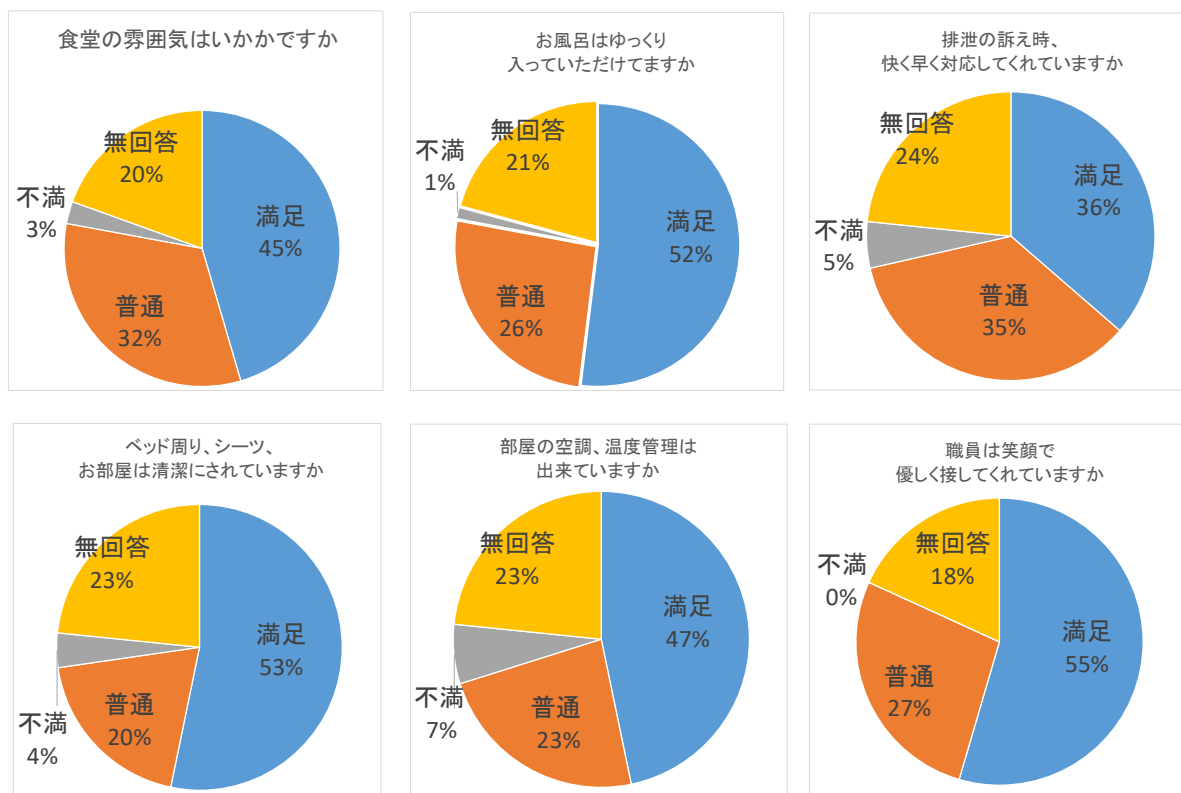
（ユニット型）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
R5 年度	0	0	4,334	4,889	915	10,138	3.7
R4 年度	0	0	5,147	3,848	1,066	10,061	3.0

◇ 特養 満足度調査（令和 6 年 3 月実施）

ならやま園では利用者の生活向上、職員の意識向上のために毎年、利用者から満足度調査を行っている。今年度の結果を報告する。

※下記 5 項目について、1. 満足 2. 普通 3. 不満 4. 無回答 の 4 段階評価にて回答してもらった。



➤ 看護部門

■ 「施設だからできる」看取り介護の提供について

令和5年度は11人の方を園内で看取った。亡くなる前日まで面会に来られた家族様の食事介助を受けられた方や、夜間も付き添われた家族様に看取られて亡くなられた方などおられた。感染症対策を行いながら家族と過ごす時間を大切にした。

■ 働きやすい職場作りについて

職員健康診断については、退職予定者・休職者を除いては全員受診することができ、結果に基づいて3人の職員が産業医と面談を行った。フォローアップが必要な職員もあり、かかりつけ医を持てもらうことと併用して、職員の健康管理を継続していく。

また、ストレスチェックについて、受検率は96%と高く、職員の意識も高い。その中で高ストレスと認定された職員は10人おり、随時産業医と面談を行った。

■ 感染症一般の予防対策について

4月に既存棟2階で利用者5名（うちショートステイ2名）、職員1名がコロナ陽性となり、約2週間の感染対応を実施した。

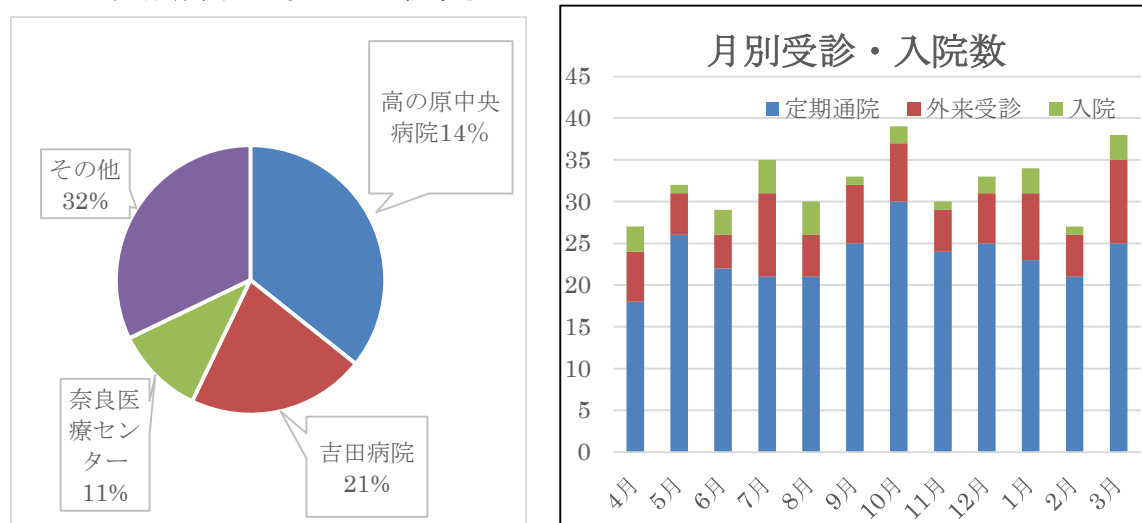
9月は再び既存棟2階で利用者利用者11人、職員3人がコロナ陽性となり、

約 2 週間の感染対応を実施した。いずれもショートステイ利用者からの発生であったが、発症後は速やかに外部からの受け入れを停止し、職員の 2 人夜勤体制を実施（感染者対応と非感染者対応に分ける）、ゾーニングによる職員配置の調整、他部署からの応援体制等をとった。短期収束することで利用者・職員の心身の負担軽減につながった。

ショートステイ利用時に体温チェックを含む健康チェックを厳重にしても、感染から発症までの 2～3 日の潜伏期間をすり抜けて持ち込まれている。日常の職員の導線や介護担当を明確にし、職員媒介で感染が拡大しないことに努めること、入園者と利用者の生活ゾーンをできる限り分けて接触機会を減らすことを実施したことで、昨年の大規模クラスターのような事態は回避できた。

1 月はロータス和で、利用者 3 人、職員 3 人がコロナ陽性となり、約 2 週間の感染対応を実施した。発生源は不明であったが、ユニット棟で全員個室であったこともあり、ゾーニングや職員配置に関しては大きな混乱もなく収束できた。

■ 医療機関への受診・入院状況



➤ 機能訓練

- 利用者や家族の意向を尊重し、また利用者の状況・状態を把握した上で身体機能評価を行い多職種協同の下、生活リハビリの設定、個別機能訓練計画書の作成し、計画に基づいて個別機能訓練を実施した。
- 感染対策のため十分に介入できないこともあり、さらに基礎疾患の影響や加齢のため機能低下を認める利用者もおられた。機能訓練指導員だけでは時間や感染対策上対応困難な場合もあったが利用者が安全安楽に過ごせるよう多職種協働の下対応できた。

- 年度途中で人事異動があり、この機会に個別機能訓練計画書の介護支援ソフトへの移行、マニュアルの新規作成や生活リハビリの書式変更・プログラムの見直しを行い、業務の効率化や他職種の業務軽減を行った。
- 5 類に移行後も感染症の予防に努め、機能訓練指導員、利用者双方、またはどちらかに感染症リスクがある場合は接触を避け、状況に応じて柔軟に対応した。

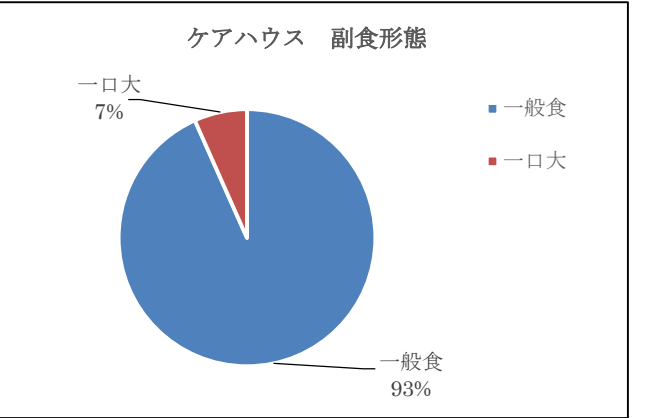
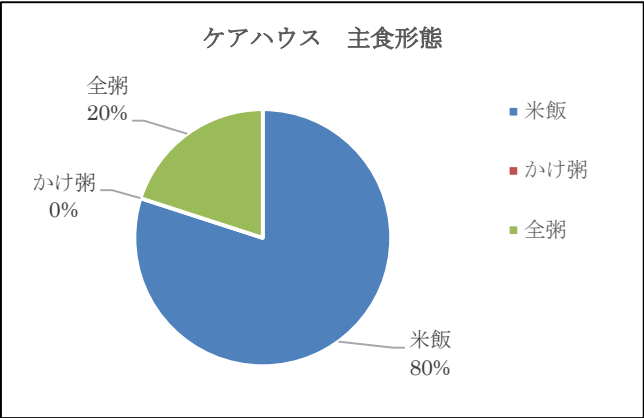
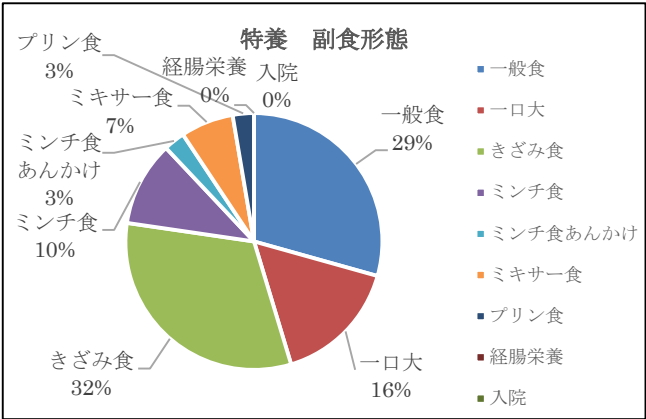
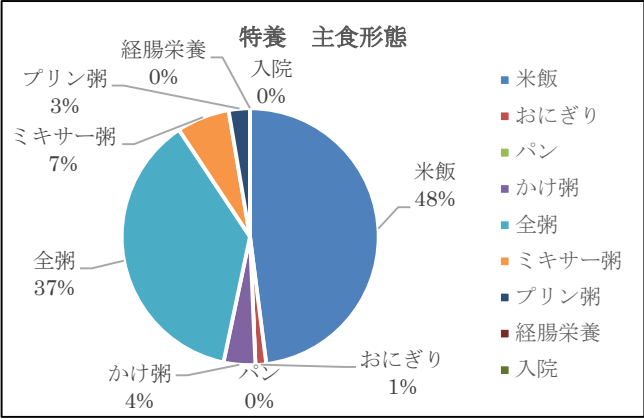
(単位：人)

	居室訓練（フロア）			ベッドサイド（居室）			
	従来型	ユニット型	合計	従来型	ユニット型	合計	合計
令和 5 年度	1, 275	516	1, 791	345	441	786	2, 577
令和 4 年度	1, 673	1, 111	2, 784	433	428	861	3, 645

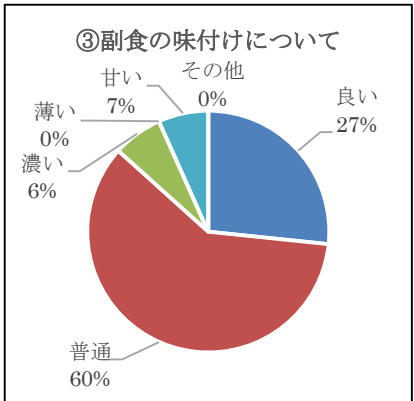
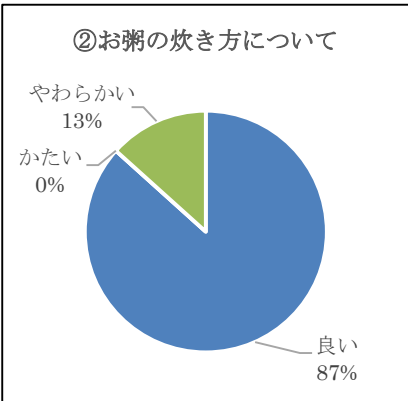
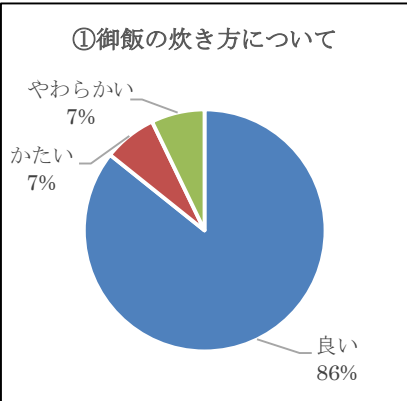
➤ 栄養管理部門

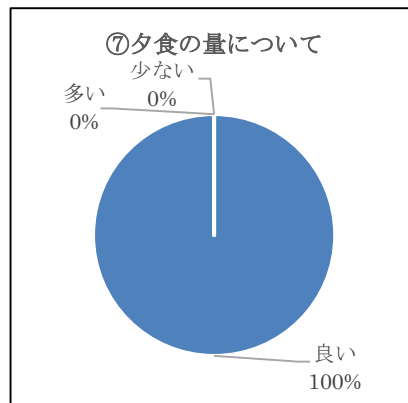
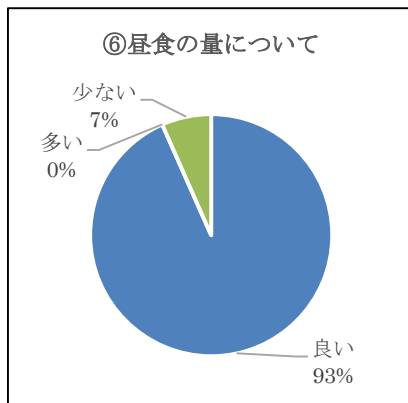
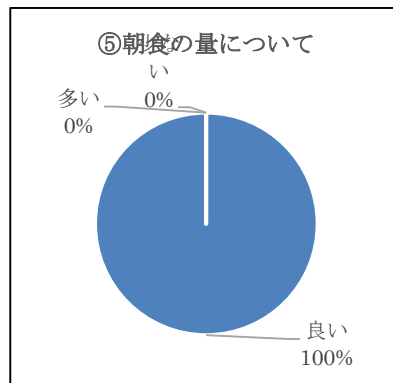
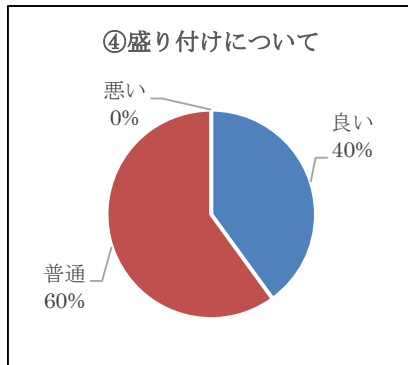
- 栄養ケアマネジメントの実施について
今年度も多職種協働で個々の利用者の状況に対応した個別対応の食事提供に取り組み、特養利用者全員に栄養ケアマネジメントを実施できた。食事療法が必要な方には療養食の提供も行っている。今後も利用者が健康を維持して頂けるよう取り組んで行きたい。
- 家庭的で季節感のある食事や行事食の提供について
誕生食、好み食、選択食、行事食等の実施により、日常生活に変化や楽しみのある食事の提供を行うことができ好評である。特に誕生食や旬の食材の使用は大変喜ばれている。おやつレクリエーションは感染症対策を行い実施し、大変喜んで頂けた。
- 食事内容の向上について
喫食状況を確認し、利用者や職員と会話をする中で嗜好や嚥下状態等を把握し、献立や調理、盛付等、食事内容に反映できるよう取り組んできた。
- 食中毒予防や感染症対策など、安全な食事の提供について
大量調理衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理に努めてきた。食中毒予防の施設内研修を書面研修で行った。感染症対策と同時に食中毒予防についても施設全体で取り組みを行うことができた。
- 非常災害時の備蓄について
非常食を使い捨て容器と共に利用者 3 日分を備蓄している。賞味期限を把握し、献立に入れる事で無駄なく入れ替えを行うことができた。又、非常食使用時は利用者や職員に意識喚起を行った。

食事形態（令和6年3月31日夕食現在）



◇ケアハウス満足度調査（嗜好調査）結果
令和6年1月実施 回答率100%





⑧今後希望される料理

- ・寿司 ・散らし寿司 ・オムライス ・焼きめし
- ・カレーライス ・天ぷらうどん ・茶碗蒸し
- ・肉料理 ・肉類の鍋物 ・クリームコロッケ
- ・ギョウザ ・マーボー豆腐（甘口）
- ・野菜たっぷりとハムのラーメン
- ・鶏むね肉と野菜の煮物や炒め物

⑨食事についての満足度を 100 点満点で評価

平均 81.3 点

⑩その他、食事に関する御意見、御希望（抜粋）

- ・順次旬のものを下して下さいますので感謝して居ります。27 年間ここのお料理を頂いて不服に思ったことはありません。物価高の折からよくやって下さっていると思います。
- ・いつも美味しい食事をありがとうございます。人参、玉ねぎ、キャベツなどの量が少ないと思います。歯茎と胃腸が弱いです。
- ・魚が多すぎる。魚の場合、手を入れ過ぎず魚本来の形、味でお願いしたい。
- ・今まで通りで良いと思います。

➤ ボランティア部門

- 令和 5 年度のボランティア活動はケアハウス、デイサービスでのイベントや移動スーパーの導入に関しての手伝い、利用者のおやつ販売などの援助を行

った。今後は特養でも以前のように慰問やイベントで利用者を癒せる援助を広げていきたい。

② ショートステイサービス

a 平城園ショートステイサービス

本年度もコロナウイルス感染拡大により受け入れ制限をフロアごとに行う事もあったが、在宅生活を継続する支援の観点から感染者がいないフロアでの受け入れをご利用者へ提案し、9割程の方は問題なくショートステイをご利用していた。

定期的なご利用をされる方に加え、新規のお問い合わせも増えているが、ご希望の日程が重なったり、空床ができてしまったりすることもあり、引き続き安定した稼働が実現できるよう働きかけていく必要がある。

ご利用者、ご家族、ケアマネージャーからサービス内容についてのご要望があった際は、その都度職員教育やご希望に沿う形で対応できる範囲のご提案をさせていただきより良い関係性が築けてきている。今後もサービス向上やご利用者等との信頼関係を構築していく。

	延利用 日数	利用者 数	介護度別利用日数						
			要支 援 1	要支 援 2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5
R5 年度	3,104	286	1	1	83	712	955	1,249	103
R4 年度	4,359	263	0	0	127	752	1,824	1,079	559
増減	-1,255	+23	+1	+1	-44	-40	-869	+170	-456

b ならやま園ショートステイサービス

➤ 職員の介護の質、サービスの質の向上を目指す。

介護職員に求められるスキル（専門性）は日々、多様化・複雑化していく中で安心できる環境、サービスを提供することが専門職として求められ、その実施に努めた。介護の質についても向上を常に目指し、ニーズに沿った対応をおこなってきたが、令和6年度に関しては、まずはショートステイの定員縮小の解消を行い、サービス再開を心待ちにされている利用者及び家族に安心・安全にサービスをご利用して頂けるように各専門職との連携・情報の共有を行い、体制の再構築を図っていく。

➤ 地域の各事業所と連携し、新規利用者の受け入れを行うと同時に、既存利用者

の安定した利用（安定稼働）を目指す。

職員の確保に苦慮することとなり、体制改善の目途がたたず、令和6年1月10日より令和6年6月30日迄の間、定員を縮小（ロングショートの方の受け入れのみ）して運営せざるを得ない状況となり、今もなおご迷惑をおかけしている。今後については、各事業所と連携し、直近まで利用して頂いていた方の利用再開の依頼、新規利用者の受け入れを行い、安定稼働を目指していく。

- 引き続き、感染症対策を含めた共通理解を深めることで、安全な受け入れを提供する。

昨年同様に新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ショートステイの受け入れを一時中断せざるを得ない状況があった。在宅の方から入居者へ広がってしまうという面は否めず、対策をとりながらの対応となった。

- 特養併設面を活かし、介護ソフト「ほのぼの」やタブレットの導入、ネオスケア（見守りセンサー）、インカムといった介護ロボット・機器が導入され、業務の効率化をおこなっている。機器を活用し、効率化による改善できた時間を、今まで以上にご利用者のお話に耳を傾ける時間に使用し、より安心感をもって過ごしていただける空間をつくる。

	延利用日数	稼働率	延 利 用 数	介護度別利用日数（日）							
				区変 中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
R5 年度	3145 日	53.9%	287 人	0	0	0	57	233	1,322	1,591	510
R4 年度	3756 日	64.5%	309 人	123	0	5	2	281	2,015	826	504
増減	-611 日	-10.6%	-22 人	-123	±0	-5	+55	-48	-693	+765	+6

③ グループホーム アクル

令和5年6月1日に法人初の地域密着型サービスとして、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）を開設した。

2フロア（18名）の定員であるが、現在は人員体制の都合により1フロア（9名）のみの稼働となっている。

次年度においては、2フロア目の稼働開始を目指すと同時に、ご利用者が少人数・家庭的な雰囲気の中で安心感を得ながら、穏やかに生活していただける環境づくりに努めていきたい。

- 認知症ケアの充実

認知症ケアの専門性をより高めるために開催される「奈良県認知症介護実践者研修」「同リーダー研修」を修了した職員を中心に、ご利用者個々のニーズや心身の状態、またご利用者の生活歴や家族歴、歩んでこられた人生の歴

史を尊重したケアの提供に努めている。次年度以降も引き続き、質の高いサービス、認知症ケアを実践できるように努めていきたい。

➤ 地域に根付いたホームづくり

開設以降、2 カ月に一回の頻度で定期的に運営推進会議を開催している。自治連合会長民生委員代表、包括支援センター職員、ご家族が参加し、施設運営に関して積極的な意見交換を行い、サービスの質の向上、地域における関係づくりに努めてきた。次年度以降も引き続き、定期的な会議の運営を通じて、より地域に根付いたホームとなるよう努めていきたいと考える。

➤ 法人内事業所との連携

開設以降、法人内各事業所（あきしの整形外科クリニック、平城園診療所、また特別養護老人ホーム平城園・ならやま園、サービス付き高齢者向け住宅ヴィラ秋篠）と連携・支援体制を図ることで、ご利用者により満足いただける支援を目指した。

次年度以降も引き続き、法人内各事業所との連携を強化することで個々のニーズに応じた支援を提供できるように努めていきたい。

④ 軽費老人ホーム

a ケアハウス ニューライフならやま

令和5年度も感染対策に対応した生活支援を継続していた。入居者に精神的ストレス及び生活に不安を抱かれる場面が多く見られたが、生活相談を受ける中、入居者の個々の思いを尊重し、精神面・身体面の様子を重視しながら不安無く安心して生活して頂ける事を願い、接するように心がけた。移動スーパーの利用や訪問喫茶、季節の作品作り等、個々で参加できる催し物を実施することで、ほんの少しではあるが、気分転換をして頂けたと思っている。1 月頃よりようやく外出やイベントに参加することで4年ぶりに生活の活気が見られ笑顔が多くみられるようになったことに救われる気持ちになった。来年度も生活に不安なく過ごして頂ける様、個々との話し合いの場を大切にし、家族様、介護支援専を門員との連携を取り支援を行っていききたいと思う。

介護度（令和5.3.31 現在）

	自立	要支援	介護1	介護2	介護3～5	合計
男 性	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名	1 名
女 性	0 名	4 名	2 名	7 名	1 名	14 名
小 計	0 名	4 名	2 名	7 名	1 名	15 名

⑤ サービス付き高齢者向け住宅

a サービス付き高齢者向け住宅ヴィラ秋篠

年間で9件の入れ替えがあったが、前年度の反省を受け、入退去の際に生じるご

家族との連絡調整をより丁寧に、意向を汲みながら行うことで、2年ぶりに年間入居率が100%となった。

コロナウイルスが5類へ移行となったことで、一日も早くコロナ以前の日常を取り戻すことを目標とし、法人内事業所の中で率先して先行事例を作るべく取り組んだ。ご家族からは喜びの声を多くいただいたが、当初はご入居者の中にこの数年間で植え付けられた、他者との距離感や一人で過ごすことの慣れ、またコロナ禍に低下した気力や体力と向き合うことからのスタートであった。

入居活動が安定的に行えたことにより、その分イベントや入居者の交流、地域への参画という従来のサービスを提供することに力を割くことができ、ご家族は勿論、友人等との外出や外食だけでなく、旅行や外泊などについても比較的早くに従来の生活様式を取り戻していただく事ができた。

また、住宅部としてケアハウスとの情報交換やイベント共催などについても機会を増やすことができ、お互いのご入居者だけでなく職員にとっても良い刺激となった。

・月別入居契約数（毎月1日時点）

月	R5. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6. 1	2	3	平均
契約戸	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
契約率	97	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

・年度内退去者 8件8名（男性2名 女性6名）

退去先内訳 ・法人内特養 2名 ・長期入院 1名 ・居室変更 1名
 ・他法人サ高住 1名 ・他法人特養 2名 ・他法人老健 1名

・年度内契約者 9件9名（男性0名 女性9名）

契約動機内訳 ・法人内紹介 1名 ・法人内ケアハウスより 1名
 ・他法人居宅紹介名 3名 ・居室変更 2名 ・インターネット 2名

・契約者数内訳：人（性別）

性 別	契約数
男性	13
女性	35
合計	48

・年代別内訳：人（重要事項説明書に基づく）

年代	65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上 85歳未満	85歳以上	合計
合計	0	0	11	37	48

・介護度別内訳：人（重要事項説明書に基づく） 平均介護度：介護1

介護度	自立	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
合計	4	5	6	13	12	8	0	0	48

・福寿会在宅部門利用者数

内訳 ・居宅…30名 ・訪問介護…28名 ・訪問リハ…1名 ・通所介護…11名

・食事 契約者数…47名 ③食事水車…1名

・食事提供数

(単位：食)

	R5. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6. 1	2	3	合計	月平均	日平均
朝食	913	961	948	1,003	1,000	969	962	912	1004	919	836	846	11,273	939	30.8
昼食	815	843	826	871	852	827	823	789	903	912	838	880	10,181	848	27.8
夕食	1,176	1,235	1,205	1,233	1,234	1,177	1,221	1,211	1,287	1,206	1,131	1,160	14,476	1,206	39.5
月合計	2,904	3,039	2,979	3,107	3,086	2,973	3,006	2,912	3,194	3,037	2,805	2,886	35,930	2,994	98.1

・生活相談件数

	R5. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6. 1	2	3	合計	月平均
件数	263	361	295	238	240	262	267	314	332	291	308	368	3,537	294.7

・健康相談件数

	R5. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6. 1	2	3	合計	月平均
件数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.08

・有償サービス利用件数

	R5. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6. 1	2	3	合計	月平均
件数	36	34	38	33	35	26	31	37	47	54	62	46	479	39.9

・入居活動件数

	R5. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6. 1	2	3	合計	月平均
営業	5	7	6	7	13	10	6	7	10	6	16	8	124	10.3
問合せ	6	8	7	6	9	6	6	4	4	3	4	7	70	5.8
見学	4	6	6	5	5	8	5	4	3	4	6	8	64	5.3
見学者	8	8	9	8	13	11	7	7	6	7	8	12	104	8.6
入居相談 面接	5	5	6	7	13	10	9	7	5	4	10	7	88	7.3

・イベント実施報告

	R5. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6. 1	2	3	合計	月平均
実施数	21	22	22	20	22	21	23	20	25	30	26	26	278	23.1
参加者	207	212	254	271	268	195	321	169	287	349	339	319	3,191	265.9

・生活支援バス利用者数

	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	合計	月平均
利用者	157	154	200	202	212	190	182	144	184	184	191	190	2,190	182.5

(2)通所系

① デイサービス

a 奈良デイサービスセンター

デイサービスの規模拡大を目指す

人員体制が整った為 R5 年 7 月より土曜日の営業を開始することができたが、土曜日の利用希望者が少ない事が課題である。今後見学や体験利用を通し営業をしていく。

➤ 職員のスキルアップと業務の簡素化

毎月のWEB研修や介護技術の研修等都度行っている。記録ソフトや送迎作成ソフト・インカムの導入により業務の簡素化が出来た。今後も効率良い業務改善を都度行っていく。

➤ 感染症対策の徹底

コロナウイルスが5類に移行後も、換気や消毒、職員のマスク等、スタッフの対応としては継続して行っている。感染症対策は継続しつつ安全で安心して利用頂けるサービスを提供していく。

延利用人数

年度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	営業日数	平均/日
R5 年度	796	1,714	1,838	1,265	603	272	6,488	337	19.25
R4 年度	693	1,490	2,094	1,027	503	213	6,020	251	23.98
増減	+103	+224	-256	+238	+100	+59	+468	+86	-4.73

b ならやま園デイサービスセンター

- タブレット記録が定着し入力や情報整理に掛かる時間を短縮する事ができた。また情報整理が容易になりご利用者やご家族、ケアマネージャーへの報告をより充実させる事ができた。
- 毎月のデイ通信の発行やサービス別広報チラシの作成を行い広報活動のツールの充実を図ったうえで引き続き、新規利用者獲得のため、居宅事業所への訪問やケアマネージャーとの連携に努めた。

- 忘れ物等のミスや事故を完全に無くすことはできなかったが、都度発生した際は迅速にご利用者やご家族への対応、十分な説明や再発防止策の検討に努めた。
- 利用者の生きがい、役割作りを意識したサービス提供を目指し、デイサービスに来て楽しかったと思っていただけるように日々のレクを充実させ、見える化を進めた。
- 新型コロナウイルス感染者が発生する事はあったが、日頃からの感染対策や都度状況に合わせた対応で感染拡大する事はなく、日々ご利用者にも安心して利用していただく事ができた。また五類に引き下がった事でボランティアレクを再開し楽しみを増やす事ができた。

要介護度別延べ利用者数								合計	営業日	平均/ 日
年度別	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	身障			
R5 年度	525	728	1,888	1,584	784	788	0	6,297	308	20.44
R4 年度	614	810	1,817	1,711	683	677	0	6,312	304	20.76
増減	-89	-82	-71	-127	+101	+111	0	-15	+4	-0.32

(3) 訪問系

① 訪問介護ステーション

a 平城園ホームヘルプステーション

- 新たな人材確保に努め、安定した利用者へのサービスの提供。

令和 5 年度の登録ヘルパーの新規採用は 2 名、定年退職者 1 名で、現在は登録ヘルパー 16 名体制となっている。応募者が少なく、サービス提供体制やサービスの質の維持の為、人材確保が最重要課題となっている。今年度は初任者研修の実施や SNS での情報発信を行い採用に繋げていきたい。

- 他事業所との連携、質の高い介護サービスの提供。

各事業所と連携し、生活支援、身体介護ともに利用者の個別のニーズに対応できた。今後の課題として奈良市の総合事業における身体介護の定義を各地域包括支援センターと相談し、ケアプランの修正も含め個別に対応する必要がある。

- 感染症対策を強化・徹底し、安心してサービスを受けて頂く。

職員、ご利用者様ともに感染もあったが、適切に対応し拡大することなく収束した。

- 記録・勤怠管理の I C T 化、作業と情報共有の効率化を目指す。

現在在籍しているヘルパー全員がスマートフォンを使用しケアパレットを問題なく使用し記録出来ている。ただ入力ミス等もあり勤怠管理を行うには至っていない。継続して精度の向上に努める。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
R5 年度	5,419 件	1,903 件	7,322 件
R4 年度	6,768 件	2,062 件	8,830 件
増減	-1,349 件	-159 件	-1,508 件

b ならやま園ホームヘルプステーション

- 利用者の尊厳を尊重し、家族や他事業所と連携してサービス提供に努める。

利用者個別のニーズに応じて、生活支援、身体介護の支援を提供できた。

今後の課題として奈良市の総合事業における身体介護の定義を各地域包括支援センターと相談し、ケアプランの修正も含め個別に対応していきたい。

- 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染予防を図る。
職員、ご利用者様ともに感染もあったが、適切に対応し拡大することなく収束した。
- 新たな登録ヘルパーの人材確保に向けて拡充を目指す。
令和５年度の登録ヘルパーの新規採用は１名で、現在は登録ヘルパー１２名体制となっている。ヘルパー会議や研修等での情報共有を継続し、サービス提供体制やサービスの質を維持していきたい。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
R5 年度	5,715 件	1,509 件	7,224 件
R4 年度	5,723 件	1,687 件	7,410 件
増減	-8 件	-178 件	-186 件

② 訪問リハビリテーション

- a 平城園診療所訪問リハビリテーション
- b あきしの整形外科クリニック訪問リハビリテーション

利用者及び家族の意向を尊重し、在宅生活に必要な身体機能・能力の急激な低下の予防を図った。

- 直接的な新規利用に繋げるには至らなかったが、クリニックの開院によりクリニックでのリハビリが終了された患者様に利用していただき利用増となった。
- 利用者一人一人を主観的及び客観的に評価した上で、適切な目標を設定し計画に基づいた訓練を行い、医師・介護支援専門員と連携し、地域包括ケアの一員として利用者の日常生活の自立と社会参加を促進し、御利用者様から満足しているという反応を受けている。
- 利用者や家族に対し、療養上必要とされる事項等について丁寧に説明できた。
- 今年度は６月に整形外科クリニックが開院し、整形外科疾患の既往がある方はクリニックに事業所変更をしていただき、内科疾患の既往がある方は引き続き平城園診療所からの指示で利用していただいている。クリニックのスタッフも訪問に対応できる為、利用していただける枠も広がり、前年の約３倍の介入をさせていただく事ができた。

利用件数

R5 年度	324
R4 年度	111

(４)居宅介護支援事業所

- a 平城園在宅介護支援センター

令和5年度は新型コロナウイルス感染症も感染症分類が第5類となり、少しずつコロナ禍前の日常が戻って来たことで、サービス提供事業所の急遽のサービス停止もほぼ無く、緊急で対応しなければならないケースがなくなった。その分、各自が新規ケース受託を積極的におこなう事ができたため、令和4年度の収益を大きく上回り目標額の達成となった。

➤ 介護支援専門員の専門性の向上

1. 医療機関との連携の強化⇒医療連携アプリ（MC S）の活用により看取りケースにおける医療関係者とのタイムリーな連絡体制を確保。また入院時に速やかに医療機関への情報提供をおこなう事で医療連携加算を積極的に算定した。
2. 地域包括支援センターからの困難ケースの受託体制の維持⇒5年度は1件受託した。
3. 外部の研修および会議への積極的参加⇒毎月第4火曜日に開催される平城地域自立支援型ミーティングをはじめ年間の研修計画に沿って積極的に参加した。
4. 介護支援専門員実務者研修受け入れについて⇒令和6年3月25日から同27日までの3日間、1名を受け入れた。
5. 圏域内の他の居宅介護支援事業所との勉強会について⇒R5年10月、12月、R6年3月の計3回。
6. 毎週火曜日の部署内定例会議について⇒月平均4回開催できた事で情報の共有がおこなえた。
7. 公正中立なサービス選択について⇒年に2回、6カ月毎に自法人のサービス利用率を集計し、ご利用者に説明を行った。
8. 24時間連絡可能な体制の維持、確保について⇒全員が社用のスマホを携帯し休日と夜間にも対応をおこなった。

➤ 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みへの参画

地域包括ケアシステムにおける多職種連携については、毎月第4火曜日の13時より、WEB形式で開催される平城地域包括支援センター主催の自立支援型ケア会議に参加。また登美ヶ丘地域包括支援センターが主催する同会議にも事例を提供して、令和5年度は1回参画をおこなっている。

・利用者延件数(ケアプラン作成) (単位: 件)

	予防(件)	介護(件)	合計(件)
R5年度	953	1,541	2,494
R4年度	732	1,436	2,168
増減	+221	+105	+326

b ならやま園居宅介護支援事業所

令和5年度は新型コロナウイルスが第5類に変更されたのを機に、リモート会議を併用しながら利用者宅訪問の制限を緩和し、新たなケアマネジメント業務を模索する年度となった。

➤ 地域包括支援センターとの連携と業務について

介護予防ケアマネジメントに関しては平城、北部、三笠、伏見、登美ヶ丘、京西・都跡、二名、若草、春日・飛鳥の9包括との給付管理を伴う連携を行い、給付管理には至らなくとも必要に応じて各地域の包括支援センターとの情報共有に努めた。また、毎月、リモートにて包括支援センター主催の自立支援地域ケア会議にも出席した。

➤ 居宅介護支援事業所としてのレベルアップについて

今年度はリモートと対面を併用し、週1回の事業所内でのケアマネジャー会議を全51回開催し、情報共有や研鑽の継続に努めた。また、平城地域の他居宅介護支援事業所との勉強会を年3回リモートで行い、情報交換を行った。

➤ 地域活動への参加について

地域ニーズを把握出来るように担当者を決めて月1回定期的に地域サロン(4ヶ所)に参加しており、コロナ禍により休止中だった地域も再開している。

➤ 介護ケアマネジメントと適正化について

年々、相談内容が多種多様化しており、サービス調整も複雑化している。ケアマネジメントを行う上で、公正かつ中立なサービスの選択、利用者の意思決定支援を心掛けて支援にあたっている。

➤ ケアプラン作成件数と認定調査について

ケアマネジメントの質の向上の一つとして行っている奈良市委託事業である認定調査を徐々に再開している。

利用者延件数(ケアプラン作成)

	予防	要介護	計
R4年度	705	2,110	2,815
R5年度	709	2,022	2,731
増減	+4	-88	-84

認定調査受託件数(市町村委託総数)

R4年度	6
R5年度	37
増減	+31

(5)配食サービス

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、配食サービスご利用者を取り巻く生活様式も、それまでの日常を取り戻す形に移行していったが、実際のところは体力低下や地域や外部とのつながりを持てなくなった方が多く見受けられ、入退院や施設への入所者も多く入れ替わりの激しい一年となった。また業務中においても、体調不良者や急変者の対応をするような場面が前年よりも増加し、配食サービスに求められる「見守り」という意味では地域に大きく貢献できた。その反面それに対応すべく

職員への指導や教育という面においても、機会のあるごとに経験を伝えるだけでなく資料を用いて研修を行うなど資質の向上にも努めた。

新年度に際しては、より一層「安心」と「健康」、「笑顔」をお届けすべく、見守り役としての地域の重要なつなぎ役であることを意識して業務に従事するとともに、昨年より一日当たり２食以上マイナスとなってしまうご利用者の獲得に向けても、効率的な営業先や新規ご利用者の獲得に動きたい。

実施状況

・奈良市からの委託配食数 ・自費による配食数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
市委託配食数	1,297	1,399	1,372	1,398	1,516	1,462	1,418	1,363	1,248	1,124	1,190	1,275	16,062 (前年比－176)
自費による配食数	672	735	703	659	688	680	706	688	638	633	716	746	8,264 (前年比－698)
合計	1,969	2,134	2,075	2,057	2,204	2,142	2,124	2,051	1,886	1,757	1,906	2,021	24,326 (前年比－874)
配食日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	25	26	309
1日平均配食数	78.8	79.0	79.8	79.1	81.6	82.4	81.7	78.9	72.5	73.2	76.2	77.7	78.7 (前年比－2.6)

①奈良市よりの新規委託件数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規件数	3	2	2	7	3	0	3	4	6	6	4	5	45 (前年比+14)

②令和５年度利用者数（令和６年３月３１日現在配食者数）

- ・奈良市委託分 95名（前年比－3名）
- ・自費 57名（前年比－6名）

（ア） 地域公益活動報告

- 【福寿会コミュニティバスの運行】と【地域清掃】についてはコロナウイルス感染症が５類に引き下げられたことを受けて、どのように再開させるのかを含め、法人

として協議を重ねた。

コミュニティバスについては、5 類移行後においても各事業所における面会や外出の制限自体が完全に解除されることがなく、バスの利用を通じて部署間で人が行き来することを管理する難しさも踏まえ、また法人全体として運転手の確保と有効利用という点からも協議し、再開については時機を見て検討を継続することとなった。地域清掃については、6 月に奈良デイ、ならやま園デイ、ケアハウス、ヴィラ秋篠を対象に平城駅前の清掃を実施。ご利用者 9 名、職員 4 名の計 13 名の参加があり、地域との交流のみならず部署間交流の一助にもなった。

- 平城地区のサロン活動再開に法人として参画することとなり、新年度からの本開催に向け令和 6 年 1 月から 3 月にかけてプレ開催を行った。これは月に 1 度地域に向けて法人施設をサロン会場として提供し、地域住民の交流と健康の増進を図るものであり、現状、法人としてはこれに向けオリジナルの体操を考案しそれをベースに地域住民と茶話会の機会を持ちながら地域ニーズを探っている。参加者は平均 7 名程度であるが、地域の他の参画法人などと協力しながら役目を全うしたい。
- 令和 6 年 3 月に地域の健康増進という点から地域住民を対象として、キリン堂薬局と共催し「健康フェア」を実施した。平城園内に健康測定ブース、リハビリ機器お試しブース、福祉相談ブースなどを設け、有志の職員 19 名が当日地域住民の対応に当たった。結果として 65 名の地域住民にご参加いただき、次の開催を望む多くの声をいただくことができた。健康フェアについては、地域への貢献とともに職員や組織を育てるという点からも、継続事項として新年度へ引き継いでいきたい。

(6)委員会活動報告

➤ 平城園委員会活動

a 研修委員会

園内研修については、引き続きお茶の水ケアサービス学院のネット配信サービスを主体として実施した。フロア内で参加調整がしやすく、参加率も向上し人材育成に貢献出来た。三菱オートリース株式会社による安全運転講習、ゆめはんな歯科による口腔ケア指導講習、三幸福祉カレッジによる、介護職の業務範囲となる医療行為、接遇マナー研修など、外部講師を招き法人集合研修の開催があり、多数の職員が受講した。

b 感染症委員会

新型コロナウイルスが 5 類へ移行しても変わらず、職員には出勤前の体調観察出勤時の手洗い・手指消毒の励行、マスク着用などの感染対策は継続したが、令和 6 年 2 月、利用者、職員のクラスターが 3 フロアで発生した。感染拡大防止に向けた対策を行い、終息することが出来た。発生時の迅速な対応はこれまでの経験も活かされ、都度見直ししていることが評価できた。また、委員会では園内のラウンドを取り入れ、消毒液の補充や管理、衛生材料のチェック、使いやすくする工夫なども新たに

取り入れ、職員への意識の向上発信に努めることができた。

c リスクマネジメント委員会

前年度と比較し、骨折事故の件数が増えた。原因は転倒・転落によるものが主であった。居室内や、単独で動いて起こるケースが多かった為、事故発生前の対策、危険予測について、より一層感性を高めていくことが必要と考える。それら含め、事故発生時は都度、状況把握、原因分析を行い、速やかに対策を取るようにした。

令和6年度からは高齢者虐待防止の推進に向け、基準も強化される。日頃からの対応、環境を見直しながら身体拘束、虐待ともに防止の意識を維持していく。

➤ ならやま園委員会活動

a 研修委員会

春、夏の終わりから秋にかけて、2部署でクラスターが計3回発生したこともあり、今年度もコロナ禍の中での集合研修は難しく主に書面での研修となった。また、過去の経験を活かし、ゾーニングや感染症予防の研修を積極的に行うと共に、利用者へのケアの質を落さないように、精神面のケアについては、現場に伝達するなど利用者の生活の安定を重要視した。

研修については、新年度は、オンライン研修を導入予定としており、受講しやすい環境を取り入れ、研修参加者を増やしていきたい。

b 感染症委員会

感染予防の研修と並行して、感染対策物品セットの準備を充実させた。コロナ陽性者発生時に、どの職員もゾーニングを含め初期対応ができることを目標にした。書面での周知となったが、対策セットに説明書を入れておくことで誰もが「見てすぐわかる」ようにできた。

c 危機管理委員会

今年度も年2回の避難訓練、地震・風水害・土砂災害の避難訓練について実施。令和6年1月に能登の大地震・日航機事故と災害が年始より続き、より訓練の重要性を感じている。

BCPについて、今年度も共有に努めているが、来年度は本格的に始動していくため、園内・法人内で共有に努めていく。引き続き、安全対策担当より、振り返りが必要な事故は皆で共有を行い再発防止に努めている。介護ロボット（見守り機器・インカム等）を活用し、今後も大きな事故が起きないように対策を検討していきたい。

➤ 令和5年度実習生受け入れ状況

☆平城園

学校名	人数	期 間
青丹学園（介護）	2名	令和5. 5.15 ～ 6. 9 （19日間）
	2名	令和5.10.23 ～ 10.27 （5日間）
青丹学園（看護）	19名	令和5. 4.10 ～ 5.19 （各4日間）
介護労働安定センター	2名	令和5.11.16 ～ 11.17 （2日間）
平城中学校	3名	令和5.11.29 ～ 12. 1 （内3日間）
伏見中学校	2名	令和5.10.25 ～ 10.27 （3日間）
京都医療福祉専門学校 （社会福祉士）	2名	令和5. 5. 8 ～ 5.30 （15日間）
	3名	令和5. 9.13 ～ 10. 4 （1名 15日間 2名 9日間 ）
	1名	令和5.11.24 ～ 12. 8 （9日間）
日本メディカル専門学校 （社会福祉士）	1名	令和5.10.16 ～ 12. 8 （24日間）
	1名	令和6. 1.11 ～ 1.28 （7日間）
奈良県介護支援専門 員実務者研修	1名	令和6. 3.25 ～ 3.27 （3日間）

☆ならやま園

学校名	人数	期 間
青丹学園（看護実習）	4名	令和5. 6. 5 ～ 6. 8 （4日間）
	4名	令和5. 6.12 ～ 6.15 （4日間）
	4名	令和5. 6.26 ～ 6.29 （4日間）
	3名	令和5. 7. 3 ～ 7. 7 （4日間）

	3 名	令和 5. 7. 10 ～ 7. 14 (4 日間)
奈良県介護支援専門員 実務研修	1 名	令和 5. 4. 13 ～ 4. 14 (2 日間)
介護労働講習 実務研修	2 名	令和 5. 11. 16 ～ 11. 17 (2 日間)
平城中学 職業体験実習	4 名	令和 5. 11. 29 ～ 12. 1 (3 日間)

➤ 出張・研修結果一覧

令和 5 年度は新型コロナウイルス感染症が「五類」に移行したこともあり会場での集合研修も増えてきたが、オンラインやeラーニング等の研修も友好的に活用し多くの職員の参加ができた。

☆平城園

出張日	人数	出張先	目 的
4 月 5 日～ 5 月 30 日	3	オンライン	医療的ケア教員講習
5 月 10 日～ 7 月 31 日 (内 5 日間)	3	e ラーニング	介護施設における安全対策担当者養成研修
4 月 27・28 日 5 月 18. 19 日	2	奈良県産業会館	甲種防災管理新規講習
5 月 23 日	1	奈良県社会福祉総合センター	福祉サービスマナー研修
7 月 10 日～ 10 月 10 日	1	奈良県産業会館	認知症介護実践者研修
6 月 22 日	2	奈良県社会福祉総合センター	OJT 担当者基礎研修
6 月 22 日	1	e ラーニング	奈良県認定調査員新任研修
6 月 26～ 8 月 18 日 (内 5 日間)	1	オンライン	奈良県介護支援専門員更新研修課程 I
7 月 4 日	1	奈良県社会福祉総合センター	ストレスコーピング
7 月 11 日～ R6. 1 月 16 日 (内 3 日間)	2	奈良県社会福祉総合センター	リーダー養成研修～リーダーの役割～
7 月 14 日	2	オンライン	令和 5 年度ネットワーク会議「カスタマーハラスメントの対応について」

7月18日	2	オンライン	未来の介護事業所への一歩、効率と品質を向上させるための 業務改善の戦略セミナー
7月19日～ 12月19日 (内5日間)	1	奈良県産業会館	認知症介護実践リーダー研修
7月20・22日	1	オンライン	看取り期に臨まれる実際のケア
7月21日	1	奈良公園バスターミナル	企業主人権・同和問題研修会
7月25.28日	1	オンライン	「病院ではない施設看護師の専門性と具体的な働き方」研修
7月27.28日	2	神戸ポートピアホテル	令和5年度 近畿老人福祉施設研修協議会 兵庫・神戸大会
7月27日	1	奈良市西部会館市民ホール	安全運転管理者講習
8月1日～ 10月31日 (計4日間)	1	特別養護老人ホーム神の園	ユニットリーダー研修実地研修
8月1日～ 10月31日	1	オンライン	令和5年度企業主導型保育園保育安全研修
8月3日	1	オンライン	令和5年度 介護現場の生産性向上に関する普及・定着促進事業 生産性向上の取り組みに関する介護事業所向けビギナーセミナー
8月7日～ 12月19日 (内5日間)	2	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座
8月22.23日 9月5日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職員コース
8月22日	2	奈良県社会福祉総合センター	介護職が学ぶ看取りケア研修
8月29日	1	オンライン	生産性向上支援訓練①DX人材育成の進め方
9月1日	2	eラーニング	近畿厚生局集団指導
9月1日	1	オンデマンド動画配信	全国老人福祉協議会 介護報酬改定対応研修～介護施設・事業所における虐待防止及び身体拘束等の適正化について
9月1日～ 10月2日	1	eラーニング	キャリアアップ研修食育・アレルギー対応
9月11日	1	奈良県社会福祉総合センター	企業主人権・同和問題研修会 公正採用選考研修会
9月12日～ 11月2日 (内5日間)	2	オンライン	奈良県介護支援専門員更新研修「専門研修課程Ⅱ」
9月25日	2	奈良県社会福祉総合センター	アンガーマネジメント基礎研修
10月2日～		eラーニング	児童育成協会 園長研修

R6.1月31日	1		
10月2日～ 11月6日 (15時間)	2	eラーニング	キャリアアップ研修 乳児保育
10月16日	2	奈良県社会福祉総合センター	奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座 (リスクマネジメントと介護職員の健康管理、チームケア、記録の書き方)
10月20日～ R6.1月24日	1	eラーニング	奈良県保育士等キャリアアップ研修 食物アレルギー対応
10月20日～ R6.1月24日	1	eラーニング	奈良県保育士等キャリアアップ研修 保健衛生・安全対策マネジメント
10月27日	1	ホテル日航奈良	近畿ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会
11月1日	3	THE KASHIHARA	第35回 奈良県老人福祉施設職員研究会議
11月14日	1	田原本青垣生涯学習センター 弥生の里ホール	令和5年度 副安全運転管理者講習
12月1日	2	インテックス大阪	Care TEX 大阪 '23
12月15日	2	奈良市役所	奈良市社会福祉施設連絡協議会「虐待と身体拘束について考える」
12月21日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度奈良県高齢者虐待防止研修
令和6年 1月12日	1	奈良県社会福祉総合センター	奈良県保育所等における不適切保育の未然防止研修
1月16日	3	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 奈良県高齢者虐待防止研修
1月19日	1	オンライン	子ども家庭省庁令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育事故の予防に向けたセミナー」
1月22・24日	7	オンライン	介護事業者の為の業務継続計画作成セミナー
2月1日	5	ホテル日航奈良	近畿老人福祉施設協議会施設長研修会
2月7日	1	奈良商工会議所	令和5年度奈良市人権啓発事業研修会 「パラスメント防止研修」
2月21日	1	奈良県産業会館	令和5年度奈良県障害者虐待防止・権利擁護研修
2月26日	1	橿原文化会館	令和5年度奈良県老人福祉施設協議会テーマ別研修会 「つついやってしまう不適切ケアを考える」
2月28日	1	奈良公園バスターミナル	奈良県認可外保育施設保育従事者研修会
3月5日	1	奈良市役所	介護人材キャリアアップ研修 職員向けストレスコントロール
3月12日	1	奈良市保健所	令和5年度 奈良市特定給食施設等研修会
3月12日	1	奈良県社会福祉総合センター	奈良県老人福祉協議会 在宅サービス研修会

3月19日	2	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 奈良県老人福祉施設協議会 栄養士研究会
法人研修			
令和5年 9月27日 10月3日	40	平城園 法人会議室	「安全運転講習」 三菱オートリース株式会社
令和5年 11月28日	20	平城園 法人会議室	「医療的ケア 介護職の業務範囲について」 三幸福祉カレッジ
令和6年 2月26～29日 3月4～6日 (7日間)	105	ならやま園 地域交流室 登美ヶ丘マミーズ保育園	「短時間で信頼関係を築く ANA 流ビジネスマナー研修」～接遇力向上 ANA ビジネスソリューション株式会社

☆ならやま園

出張日	人数	出張先	目 的
令和5年 5月1.16日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 初任者コース
5月10日～ 7月31日 (内5日間)	3	オンライン	介護施設における安全対策担当者養成研修
5月18.19日	1	奈良県産業会館	甲種防災管理新規講習
5月18日	1	オンライン	奈良県認知症介護基礎研修
5月23日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 福祉サービスマナー研修
6月13.14日 6月27日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース
6月19日	1	奈良県社会福祉総合センター	介護現場における腰痛予防と対策
6月22日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年 OJT 担当者基礎研修
6月27～30日 (4日間)	1	特別養護老人ホーム 神の国	ユニットリーダー研修 実地研修
7月4日	1	奈良県社会福祉総合センター	ストレスコーピング
7月11日	1	奈良県社会福祉総合センター	リーダー養成研修～リーダーの役割～
7月20.22日	1	オンライン	看取り期に望まれる実際のケア
7月25.28日	1	オンライン	「病院ではない施設看護師の専門性と具体的な働き方」研修
7月27.28日	2	神戸ポートピアホテル	令和5年度 近畿老人福祉施設研修協議会 兵庫・神戸大会
7月27日	1	奈良市西部会館市民ホール	安全運転管理者講習

8月22,23日 9月5日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職員コース
8月22日	1	奈良県社会福祉総合センター	介護職が学ぶ看取りケア研修
8月24日	1	オンライン	令和5年度 介護現場の生産性向上に関する普及・定着促進事業 生産性向上の取り組みに関する介護事業所向けビギナーセミナー
8月29日	1	オンライン	生産性向上支援訓練①DX人材育成の進め方
9月5日	1	奈良県社会福祉総合センター	ストレスに負けない心をつくる
9月14,15日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 初任者コース
9月25日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 アンガーマネジメント基礎研修
9月27日	2	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座 (高齢者の病気の理解、高齢者のからだと機能訓練)
9月28日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 OJT 担当者実践研修
10月16日	2	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座 (リスクマネジメントと介護職員の健康管理、チームケア、記録の書き方)
10月26,27日 11月8日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度福祉職員キャリアパス対応 生涯研修 中堅職員コース
11月1日	1	THE KASHIHARA	第35回 奈良県老人福祉施設職員研究会議
11月6日	2	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 対人援助コミュニケーション力向上研修
11月13日	2	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座 (認知症ケア、口腔ケア)
11月14日	1	田原本青垣生涯学習センター 弥生の里ホール	令和5年度 副安全運転管理者講習
11月24日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 利用者理解力向上研修
11月28日	1	かしはら万葉ホール	令和5年度 奈良県社会福祉大会
11月29日	1	インテックス大阪	Care TEX 大阪 '23
11月30日 12月1日	1	AP 大阪茶屋町	第14回 ユニットリーダー研修
12月4日	2	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 対人援助コミュニケーション力向上研修
12月14日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 OJT 担当者実践研修
12月15日	1	奈良県社会福祉総合センター	認知症ケア 五感対話法
12月19日	2	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座 (看取りケア、利用者の死の向き合い方とメンタルヘルス)
令和6年 1月16日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 リーダー養成研修 ～リーダーが折れないために～

1月16日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 奈良県高齢者虐待防止研修
2月15日	1	介護労働安定センター	口腔ケア
2月21日	1	オンライン	奈良市介護施設従事者による虐待防止研修
3月5日	1	奈良市役所	介護人材キャリアアップ研修 職員向けストレスコントロール
3月12日	1	奈良市保健所	令和5年度 奈良市特定給食施設等研修会
3月19日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和5年度 奈良県老人福祉施設協議会 栄養士研究会

6 医療部門

(1) 平城園診療所

特養の入所者に関しては、医務室看護師と連携し、利用者の健康管理と日常的な診療を行い、疾病予防医療についての運営に努め、重症者については関連病院との連携により迅速に対応した。法人職員に関しては、産業医による定期健康診断の実施及び、衛生管理者との連携を図り、業務による疾病予防と健康管理に努めた。

新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種は、法人内施設の入所者及び法人全職員を対象に7回目の追加接種まで終了し、インフルエンザ予防接種も例年通り実施した。しかしその後コロナ感染症クラスターが発生したが、医務室と連携し早急な診療体制で入所者の治療にあたり、また他病院と連携し入院治療が行えるよう迅速な対応を行った。一般外来診療については令和5年度からの診療所の体制により週1回火曜日の午前中のみ診察となったため、受信者数は減少した。

受診者数

(単位：人)

	利用者	法人職員	地域住民	合計
R5年度延人数	5,483	38	153	5,674
R4年度延人数	6,378	112	288	6,778

(2) あきしの整形外科クリニック

- 令和5年6月1日にクリニックは開設された。はじめは法人敷地内に位置していることから老人福祉施設のクリニックという認識が広まり、受診数は予想を下回っていた。周辺の学校への訪問を行い、救急患者の診察を行い12月に入り新患数、受診者数の増加がみられるようになり認知が進んだことがうかがわれる。

令和5年度 受診者数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延患者数	232	438	355	309	352	361	448	432	487	473
新患数	92	69	45	24	58	62	121	90	107	105
診療日数	19	20	17.5	14.5	17	17	18	15	16	16

一日平均 患者数	12.2	21.9	20.3	21.3	20.7	21.2	24.9	28.8	30.4	29.6
一日平均 新患数	4.8	3.5	2.6	1.7	3.4	3.6	6.7	6	6.7	6.6

7 保育部門

(1) 登美ヶ丘マミーズ保育園

保育園は集団での遊びや生活を通して豊かな心や主体的な態度など生きる力の基礎を培う場である。子どもたちにとって保育園で遊ぶ「今」が心地よく幸せなものとなるよう、常に子どもを真ん中に保育を進めてきた。令和5年度はコロナも5類に移行し、感染対策は万全にしながらも予定していた行事は全て実施することができた。運動会、夏祭り、作品展、発表会など、保護者にも複数名で参加していただき、子どもの楽しみを共有してもらったり、成長の様子を喜んでもらったりした。日常生活や遊びの中では、乳児クラスでは、保育士との愛着関係を基に自己肯定感を育み自らやろうとする意欲を大切にする保育を構築した。幼児クラスでは子どもたちが面白がっていることに目を向け、好きな事をみつけて夢中でとことん遊ぶ姿を大切にし、遊びの中での学びを得るようにしてきた。「できた!」という小さな喜びをたくさん積み重ね、保育理念に揚げる「生きる力」「創造力」「温かい心」の育成に努めた。

特色ある活動として、「マミーズ農園」での野菜栽培と収穫、調理して食べるといった「食育活動」を通して食への関心を広げてきた。また、外部講師の力をお借りしての「英語活動」や「体操教室」、課外活動としての「放課後イングリッシュスクール」「スポーツ教室」「ダンス教室」なども充実し経験の幅を広げることができた。さらに今年度は、開園以来計画していた法人の高齢者施設の方々との交流ができた。園を訪問していただき、一緒に触れ合って遊んだり、作品展を見学してもらったりした。優しさや温もりに包まれ、保育理念の1つである「温かい心」を育むことができた。地域交流では、国際高校の生徒と園児の交流や佐保短大ゼミ学生と造形活動を楽しんだり、「ならせんと会」によるお話の会を毎月1回実施し子どもたちの心を豊かにする取り組みを行った。

創立3年目を迎え、園児数も年々増え、現在100名以上の園児が通園している。0歳児については少子化の影響もあり4月当初の在園数は少ないが徐々に増え、12月には定員の18名を満たすことができた。一時預かり保育も増えつつあり、毎月100名ほどの利用があった。

保育者の専門性の向上の為、園内研修会やキャリアアップ研修、不適切保育についての研修、AED講習、法人全体での接遇研修などを通して学びあった。学んだことについて振り返り日々の保育に生かせるようにしていきたい。

子育て支援としては、園庭開放や0歳児親子対象のマミーズ広場を開催した。少人数

ではあるが一時預かり保育や通常保育への就園にも繋がっているので今後も計画的に取り組んでいきたい。

➤ 園児利用状況

・通常保育 利用児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	4	4	3	7	7	9	13	15	18	18	18	18
1歳児	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
2歳児	21	21	21	21	20	21	21	21	21	21	20	20
3歳児	19	20	20	20	20	20	21	21	21	21	20	20
4歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
5歳児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

・一時預かり保育 利用児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	150	126	153	139	110	143	130	82	94	107	93	97

➤ 保育の実施状況

■ 保育について

保育理念である「生きる力」「創造力」「温かい心」を目指し、「たくましい子、優しい子、心豊かでのびのびした子、創造力のある子」を保育目標に掲げ、様々な遊びや体験を通して、子どものやりたい気持ちを大切にしながら、自己肯定感や非認知能力の育ちを大切にした保育を年齢ごとの指導計画に添って進めた。

■ 園行事

コロナも5類に移行したので、感染症予防対策は引き続き励行しながらもほぼ予定通りに行事を進めることができた。

4月	1日	第4回 入園式	11月	13～18日	作品展
	20日	内科検診(1回)		14日	保育参観
	18・19日	検尿		16日	内科検診
5月	17日	遠足(3・4歳児)	12月	25日	クリスマス会
	18日	遠足(5歳児)	1月	22～26日	個人懇談

	29, 30 日	保育参観	2 月	2 日	節分の会
6 月	8 日	遠足ごっこ (2 歳児) 園内		3 日	生活発表会
	15 日	交通安全教室	3 月	1 日	ひな祭り会
	16 日	眼科検診		7 日	お別れ会
	20 日	施設交流		13 日 15 日	英語参観
	22 日	歯科検診		18 日	体操教室
7 月	7 月	七夕の会		22 日	卒園式
	13 日	子育て支援 (マミーズ広場)		28. 29 日	家庭保育協力日
	18 日	プール開き	※毎月行事 避難訓練・誕生会・身体測定・英語教室・体操教室 お話の会		
	28 日	夏祭り			
8 月	8 日	プール納め			
	12～14 日	家庭保育協力日			
	21～25 日	個人懇談			
9 月	19 日	敬老参観			
	26 日	施設交流			
10 月	5 日	交通安全教室			
	11 日	運動参観 (1. 2 歳児)			
	12 日	運動会 (3. 4. 5 歳児)			
	24 日	遠足 (レゴランド)			
	27 日	芋ほり			

■ 健康管理

内科検診…年 2 回実施 (4 月 20 日・11 月 16 日)

歯科検診…年 1 回実施 (6 月 26 日)

眼科検診…年 1 回実施 (6 月 16 日)

■ 食育指導 (給食)

畑のおじさんの指導の下、四季折々の野菜を育て、収穫した野菜は給食で提供してもらった。季節の食材を食することで、食に関心を持たせた。また、4・5 歳児では、クッキング活動を取り入れ、「作る楽しさ」「食べる楽しさ」を味わったり、食に関する紙芝居や、3 つの食品群の話を栄養士や給食の先生にいただき、食することへの意欲や興味・関心を持たせるようにした。

■ 安全対策

災害に備え、避難訓練を年間 13 回実施した。火災・地震・水害・不審者対応など、非常時を想定して行った。不審者対応訓練は、警察官の指導の下訓練を行った。交通安全教室を年間 2 回開催し、歩行訓練と警察官からの安全指導を受けた。

(7月、10月)

安全計画を作成し計画に基づき進めた。危機を想定しながらの訓練や、非常時の対応の仕方について実践を伴って共通理解した。警察や消防署の協力も得ながら対応の仕方について学んだ。

AED講習会を開き、消防士の指導の下、全職員が救急・救命について学んだ。

➤ 会議・研修

■ 定例職員会議（12回）、リーダー会議（10回）、処遇会議（食育・安全・人材・特別支援）

子どもたちが日々安全・安心で楽しい毎日を過ごすにはどのような環境や援助が必要となるか、園やクラスの実態や保護者の様子等を出し合い情報共有した。行事については係を中心に進め、終了後は振り返りを行い、翌年以降の課題をとりまとめた。

処遇会議では、部会ごとに会議をもった。安全部会では、ヒヤリハットの事例から環境の見直しを行った。新任職員については保育の中で実践できるよう、嘔吐処理やけがの処置などについても学ぶ機会をもった。特別支援部では、毎月の巡回相談の際に担当者が集まり、講師の助言を仰ぎ、今後の指導に生かすようにした。人材育成会では、園内研修・勉強会の企画、実施後のまとめを行い園内に掲示し、参加できなかった職員もまとめを見て学べるようにした。今後も一人でも多くの職員が研修に臨めるよう会の持ち方を工夫していきたい。

■ 園内研究会（年間5回） キャリアアップ研修（個人） 園内外の研修に参加。

職員の資質向上のため、園内研究会を実施。公開保育と研究討議を通して学び合う。研修の持ち方を考え、少グループで話しやすい場になるようにした。学んだ事が日々の保育実践に生かされるような話し合いになるように努めた。

キャリアに応じて各種研修会に参加し、参加後は報告書を提出。研修報告会については集まる時間等のこともあり、改善できていない。定例会議時に報告会も入れるなどの工夫をしていきたい。

園内研修では、「危機管理マニュアルの確認」「不適切な保育について」「ミニ保育研修」「感染予防対策」等を行った。

不適切な保育については、各保育士が「人権擁護のチェックリスト」を用いて子どもへの関わり方を振り返り「子どもを尊重すること」や「子どもの人権擁護」について意識を高めた。また、各自「ユマニチュード実践の動画」を視聴し、感想や実践に生かされることなどを記録し、適切な関わりについての意識を高めた。各種研修にも参加し、講師の話を聞くことで自身の保育を見直し適切な関わり方を改めて学ぶことができた。

「語り合い研修」では新人・乳児・幼児別・クラス別で日頃の保育の進め方や子どもへのかかわり方等について話合っている。少人数で、思いが出しやすく充実した話し合いになるので定着させていきたい。

➤ 地域との関わり

- 0歳児の保護者と妊婦さんを対象に「マミーズ広場」を開催した。保育見学、園の説明、触れ合い遊び等を行った。中でもクリスマス会は講評であった。就園につながるよう今後も計画したい。
 - 奈良県立国際高校との交流
桜見、家庭科クラブ生徒との遊び体験等の交流ができた。
 - 佐保短大、ゼミ学生による「造形活動」を行った。
 - 「ならせんと会」によるお話の会を毎月1回実施した。
 - 療育施設との連携により配慮を要する園児の発達支援を実施した。
- 保護者支援
- 保育参観や行事への参観を実施したところ大変好評であった。運動会や夏祭りは親子で楽しめる時間となった。保育参加を通して、子どもの育ちや園の魅力など保育・教育について理解してもらえる場にしていきたい。

(2) 福寿会マミーズ保育園

令和5年度は4月より従業員枠・共同利用枠5名、地域枠3名で新年度をスタートした。
5月には従業員のお子様を新たに2名受け入れ、定員いっぱいの10名のお子様を受け入れ行うことが出来た。4月以降、定期利用の問い合わせが相次いだが生き定員が無く約20名の方に入園をお断りすることとなった。可能な限り登美ヶ丘マミーズ保育園の一時預かりと連携し、ご利用いただいた。

保育では、園外散歩を沢山取り入れることで、四季の自然に親しむことができた。

また、保護者の育児困難をサポートできるように、細やかな相談の機会を増やし、保護者支援をしっかりと行った。専門性の向上を目指して、保育士研修を積極的に受講し、保育士間での学びを深めることで、保育士それぞれの意識の向上を目指すことができた。

子どもたちを真ん中に保護者と保育士が一緒になって育めるよう努力し、今後も従業員の働き方に即した保育の提供と、地域に密接した寄り添った保育をご提供していきたい。

・利用者延人数

(単位：人)

	R5.4		5		6		7		8		9	
	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時
0歳児	19	0	26	0	40	0	36	0	39	0	32	0
1,2歳児	112	1	131	12	117	9	104	8	114	4	109	5
3歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4,5歳児	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0
合計	131	1	157	12	157	9	140	9	153	9	141	5

	10		11		12		R6.1		2		3	
	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時	定期	一時
0歳児	40	0	34	0	36	0	30	1	31	0	58	0
1,2歳児	131	3	115	1	116	0	102	2	105	0	105	0
3歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4,5歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	171	3	149	1	152	0	132	3	136	0	163	0